ミュンヘンへの道

オリンピック、オリンピックと目の色をかえているのは協会首脳者にナショナルプレイヤーと呼ばれる一にぎりの選手だけ、底辺の関心度とは相当な開きがある。現状分析を誤るとんでもないことになりはしないか——という声が一部にあるそうだ。

どこで日本協会の方針が誤解されたものなのか。

本来なら警鐘とも言えるこの種発言も、あまりのひとりよがりには苦笑を禁じ得ない。

なるほど、東京オリンピックの直前「種目削減」という冷酷な一刀に泣いた斯界であれば、オリンピックには〝執念〟じみた感じかたがある。さらにマイナー・スポーツと呼ばれる競技にとり、オリンピックは打ち出のこずちにも似た〝魔力〟が秘んでいるのも事実だ。

が、日本ハンドボール協会はオリンピック出場のみに血まなこになっているのではない。

強いてオンリピックによって得ようとしているものを探せば荒川理事長のいう「誇りと自信」だろう。

オリンピック出場で日本全土にハンドボールブームが起こるとか、一挙に競技人口、愛好者人口が倍増し、三倍増しになるなどといった夢などいささかも抱いていない。

30余年、苦労を重ねられた多くの先輩、そして今日もまた黙々とハンドボールに親しむプレイヤー諸君にこの競技が世界のスポーツであることを再認識して欲しいというのが唯一無二の目標である。

日本協会にとってオリンピックは大事業であることに間違いはない。しかし、これに比肩する大事業が多いことを日本協会は片時も忘れてはいない。

日本ハンドボール界がつねに心がけるべきは、競技の正しい理解を深める努力をおいて他にないのだ。

ナショナルプレイヤーはオリンピックを狙える年に現役競技者であった幸運のみを喜びベストをつくしてくれればよい。

わずか一にぎりのプレイヤーと関係者はこれからの150余日は必死になるだろう。あえて筆者はこれを「幸運への義務」と呼ぼう。でも〝その翌日〟からは、いつものように、日本協会の道を静かに歩んでいこうと考えているのだ。ミュンヘンへの道も「日本ハンドボールの道」からすれば一つの小路にしかすぎぬ。（杉山）

時評

西ドイツへ〝ハンドボール留学〟している近森克彦選手（芝浦工大—大崎電気）が6月5日に帰国する予定だ。

西ドイツの全国リーグ（ブンデス・リーガ）に留学先のハンブルグ・スポーツの一員として出場したことは本誌などで御承知の読者も多いと思うが、日本の一流プレイヤーが初めて外国のトップゲームに参加し、その声価を大いに高めたことは絶讃すべきだと思う。

さらに、今回の近森選手の渡独は、彼の不乱の情熱以外に何ものもなかったということに注目したい。

彼はナショナルプレイヤーとして3回欧州遠征をしている幸運な選手だが、訪欧のたびに本場のハンドボールの深さに憧れがつのっていったようだ。

どうしても自分の体でそれに触れてみたい、という意欲は昨夏和歌山での全日本総合直後、あわただしい出発へと実を結んだ。

ハンブルグ・スポーツとの折しようはもちろん、こまかな渡航準備の一つ一つも誰の力も借りず飛び立っていったわけだが周囲の目は、彼の情熱にむしろ押され気味、不安なまなざしが多かったものである。

事実わずか半年で伝統のヨーロッパハンドボールの総てを吸収することは不可能であろうし、受け入れ側が彼の実力をどう評価するかさえ未知数だった。それに日常の生活。

『いくつかの障害はありましたが、ヨーロッパでハンドボールができると思うとすべて苦になりませんでした』と彼はいう。

彼が見聞したヨーロッパハンドボール界の実情はすべて驚異であったようだ。

『日本とは比べものにならない。だが、何時か日本のハンドボール界もここまで来なければいけません……』—親しい人たちへの手紙には必ずこう書かれてあった。

パイオニアにはつねに勇気が求められ、成功が期待される。本場への留学という苦難の道を彼は独力でやってのけた。

目前にせまっているミュンヘン・オリンピックにはとても間にあわぬが、斯界の将来の大計を考えた時、有望選手やコーチ、トレーナーをヨーロッパへ〝ハンドボール留学〟させることを日本協会の事業の中で是非とも恒例化して欲しい。

近森選手の〝開拓心〟を彼だけのものに終らせてしまっては何にもならない。（X）

「ハンドボール」6月号（第87号）目次

ミュンヘンへの道……(1)
時評……(1)
オリンピックアジア予選……(2)
梨花大来日決る……(2)
NHK選抜の日程決る……(3)
実業団トーナメント予想……(4)
全国有力チームの新陣容……(6)
全国自衛隊大会……(10)
各地の学生リーグ……(12)
東北・北海道……(12)
関東男子……(12)
関東女子……(14)
東海男子……(14)
東海女子……(15)
関西男子……(15)
関西女子……(16)
南九州選手権……(16)
海外トピックス……(18)
欧州ハンドボール事情(上)……(20)
ナショナルチーの記録……(22)
グンメルスバッハの残したもの……(26)
各地の記録……(30)
編集後記……(32)

【表紙写真】関東学生リーグ日体大—中央大戦（駒沢屋内球技場・山田真市氏撮影）

オリンピックアジア予選

6月10日に正式参加申込み〆切

日本協会では5月15日体協で開いた月例常務理事会席上、今秋のオリンピックアジア予選について協議を行ない、3月名古屋で開いた三国会議の結果に対するイスラエルからの正式回答がいぜん未着なことに対しかなり強硬な意見が出された。

イスラエル協会は三国会議で同意をみた「日本協会はイスラエル選手団旅費の60％を負担する」という条件に対して4月19日までに正式回答(編集部注・三国会議に出席したイスラエル代表は同国オリンピック委員)を寄せる約束になっていたものだが、4月18日日本協会あて『イスラエルハンドボール協会首脳が渡欧中のため5月上旬まで回答を待って欲しい』という連絡が届いただけで、その後一切音信がない。

このため常務理事会ではイスラエル側の回答をこれ以上待てないとして、一気に実施要領の発表を行なうことになり、とりあえずエントリー関係の日程を次のように決め、ただちに日本を含む三協会に対し通達（英文）した。

▽三ケ国正式参加申しこみ締切り日　6月10日
▽参加役員・選手名申しこみ　10月10日

慎重要す日本協会

≪解説≫　イスラエルは来る気があるのか、ないのか——一部常務理事の質問に田村会長、荒川理事長もまったく答えようがなく、いつまでも同国の回答を待っていては準備も出来ないということで強引とも思える「エントリー日程」の決定が行なわれた。

常務理事会をいっそう混乱させているのは4月29日付で国際ハンドボール連盟（IHF）のワグナー首席秘書（事務局長）から送られて来た公文書の内容が「IHFはオリンピックアジア予選を日本で三ケ国の総当り2回戦制で行なうことを認める。日本は韓国とイスラエルの選手団18人の往復旅費の40％を負担する」と記されていたことだ。

これは日本協会がIHFあてに送った三国会議の報告書に対する回答とみられるが、「往復旅費の40％……」という数字は日本協会もまったく心当り（?）がない。

イスラエルにもIHFの公文書は送られており「40％」と「60％」の食いちがいに疑問を抱いているのではなかろうか。

エントリーの日程を決めるのは“開催国”の権限だが、いきなりこのような通達を受けとったイスラエル側がどのような態度を示してくるか。いつまでも落ち着かぬ話だが、それもオリンピックという大会、アジアにおける初の国際大目標をかけてのことだけに日本協会も慎重な行動をとるべきだろう。（X）

梨花大（韓国女子学生）の来日決まる

日体大など4戦

全日本学連では6月1日から韓国・梨花大学女子チームを招いて初の日韓女子学生親善試合（全4戦）を行なうことに決めた。

両国の交流は近年とみに盛んだが「女子学生」は3年来の懸案。今回もいちど全日本学連は招待をことわっていたものだが韓国側の強い要望から急に話がまとめられたもの。韓国女子との対戦は実業団の白花醸造（2月来日）について2度目。

本誌締切りまでに未確定な部分もあるが日程、来日メンバーなどは次のとおり。

【日程】▽来日　6月1日▽第1戦　3日　対日体大（18時・駒沢屋内球技場）▽第2戦4日・対関西学生選抜(18時・大阪市中央体育館)▽第3戦7日　対東海学生選抜（17時・名古屋市体育館）▽第4戦10日　対東京女体大（18時・駒沢屋内球技場）

【役員】▽団長　韓成一▽監督　金鐘光▽コーチ　金正秀▽マネジャー（兼選手）権貞順

【選手】▽GK　沈順熙（20才、164cm、56K）朴吉淵(19、166、63)、▽FP　呉仁淑（19、166、50）、李美羅（19、158、57）、鄭仁淑（19、164、57）、趙蓮姫（19、158、58）、尹栄旭（19、165、59）、金恵淑(18、163、54)、金延美（19、167、60）、徐香南（19、158、56）、崔富玉（19、155、52）

関東―東海実業団(女子)で開幕
25日から全日本選抜大会

日本協会は6月25日から27日まで東京体育館で開く第18回NHK杯全日本選抜大会の日程を別表のように決め発表した。

男女とも本誌既報のとおり選抜軍4チームによるリーグ戦。斯界で初めてのオールスターシステムによる大会への前評判は早くも高まっている。ナショナルチームが一つのチームとして国内の大会に出場するのは男女とも史上初。また、西ドイツでのハンドボール留学から6月帰国する近森克彦選手（大崎電気・元全日本選手）は全日本実業団選抜軍から出場の予定。

入場券は日本協会で

なお、同大会の入場券は一般券200円高校券100円。日本協会（東京都渋谷区神南1の1の1　電467―七〇九七）で6月1日から発売される。

〔お詫び〕　本誌前号で女子の出場チームに東日本、西日本各実業団選抜が出場するとしたのは関東、東海の誤りでした。

第18回全日本選抜組み合せ

▷第1日（6月25日・金）

15.00	女	関東実業団選抜―東海実業団選抜
16.10	男	全日本学生―全日本実業団
17.30	女	ナショナル―全日本学生
18.40	男	ナショナル―全日本教職員

▷第2日（6月26日・土）

13.30	女	全日本学生―東海実業団選抜
14.40	女	ナショナル―関東実業団選抜
15.45	男	ナショナル―全日本学生
17.05	男	全日本実業団―全日本教職員

NHK教育TV　15.00～17.00

▷第3日（6月27日・日）

13.00	女	全日本学生―関東実業団選抜
14.10	男	全日本学生―全日本教職員
15.30	女	ナショナル―東海実業団選抜
16.40	男	ナショナル―全日本実業団

会場・東京体育館

ダンケルセンの招待は取り止め

日本協会は5月15日の月例常務理事会で、来日の希望を寄せているグリュン・ヴァイス・ダンケルセンクラブ（今年度西ドイツ男子選手権優勝チーム）との国際試合について協議したが、受け入れ体制が万全でない、日程の調整が難しいなどの理由で招待しないことに決めた。

第1戦は9月4日横浜
スウェーデン国際試合

日本協会は9月のスウェーデンナショナルチームとの国際試合（全7戦）日程のうち、第1戦を9月4日横浜文化体育館（対全日本）に変更することを決めた。当初は3日に予定されていたが会場の都合で一日繰りさがったもの。

48年4月沖縄でスポーツ大会

日本体協はこのほど48年の沖縄復帰を記念して開く「沖縄復帰記念全国スポーツ大会」について協議、48年4月17日から20日までの4日間、沖縄全島24会場（9市1町2村）で開くことを確定した。競技はハンドボールなど21競技でハンドボールはコザ市営体育館で高校女子8チーム（沖縄側1、本土側7）によって行われる予定。

なお、沖縄協会は来年の第8回九州選手権を同地で開くことに決めている。

杉山氏が復帰　日本協会ではこのほど杉山茂氏の執行部（会長推せん理事）復帰を発表した。

日本協会規約を一部変更

日本協会では全日本自衛隊連盟の加盟にともなう規約変更を行い3月7日の全国評議員会で承認、このほど発表した。

改正個所は次のとおり

▽第14の八「理事35名以内」

▽第15条第1項「評議員は各都道府県及び沖縄協会の会長、全日本実業団ハンドボール連盟会長、全日本学生ハンドボール連盟会長、全国高等学校体育連盟ハンドボール部長、全日本教職員ハンドボール連盟会長及び全日本自衛隊連盟会長がこれに当たる。

▽第17条第1項の二「第25条の規定による全国連盟10名」

▽第25条「本会は全日本実業団ハンドボール連盟、全日本学生ハンドボール連盟、全国高等学校体育連盟ハンドボール部、全日本教職員ハンドボール連盟並びに全日本自衛隊ハンドボール連盟など全国的ハンドボール団体について評議員会の議決を経て加盟団体とすることができる」

会長推せん理事数変更　全日本自衛隊連盟の正式加盟によって日本協会規約第17条第2項にもとずく会長推せん理事のワクは15名に拡げられた。現在、会長推せん理事は河内海外駐在代表を含めて14名である。1名の補充については未定。

上位狙う神奈川勢

～全日本実業団トーナメント展望～

住化、丸善、大山商会にも注目

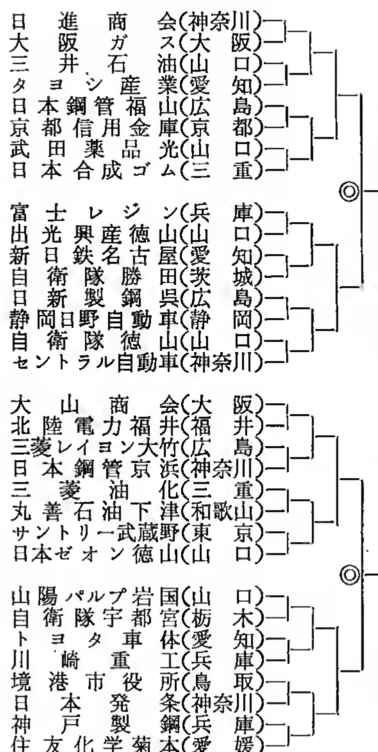
昭和46年度全日本実業団トーナメント（男子のみ）は6月13日から16日までの4日間山口県下松市民運動場に全国から32チームが参加して行なわれる。この大会の上位2チーム（組み合せ◎印勝者）には7月21日から名古屋で開く第12回全日本男子実業団選手権（日本実業団リーグ）への出場権が与えられる。大会の組み合せは5月22日別表のように決められた。有力チームをさぐり出してみよう。（編集部）

〇…………〇

全日本総合選手権の冬季移行にともなって、全日本実連では恒例の各大会の日程を大幅に変更したため、今春2月に開いたばかりのこのトーナメントも3ケ月足らずの間をおいただけで行われることになった。しかし各チームとも新シーズンと同時に有望な若手を補強しており、新鮮味に欠ける心配はまったくない。むしろ上位リーグへつながるシステムに刺激された有力チームの対戦は充分にファンをたんのうさせるだろう。

順当ならば準決勝は日進商会×セントラル自動車の神奈川同士、大山商会（大阪）×住友化学菊本（愛媛）または日本発条（神奈川）となるだろう。

大会組み合せ



日本発条を除いてはいずれも上位リーグの経験チーム、復帰を狙っての試合ぶりが注目される。

日進商会はGK佐藤、米沢、正本、永嶋、大山、出口、北橋ら主力はほとんど変わらずベテラン揃いらしい攻守を見せるが、いちぢほどの鋭さがない。

これに対してセントラル自動車は上り坂の好チーム。選手層も厚くこの大会を飛躍の足がかりにしたいところだ。中村、羽毛田、若崎、峰らの攻撃力は一級だが守備力にわずかな不安を残す。

大山商会は昨年あたりから急速に力をつけて来た。奥川、中村、前島、佐藤、GK川原らでまとまりがある。

住化菊本。かつては大崎電気（埼玉）と実業団タイトルを争った古豪だが、最近はやや精彩を欠いている。長身・金剛の成長で加藤の負担が軽くなると地力はあるだけに、第一線への復活は容易だろう。他に落海、神代、白石、伊藤らのテクニシャンが揃い新人では曽我部（新居浜工）が注目される。GKは藤田が正位置についた。

ダークホースの一番手にあげられるのは日本発条だ。北村石塚、高野、GK清水らに小野口（立教大）が加ってピリッとしまった。北村、小野口と立教全盛時を築いた両選手のプレーはなんといってもアカぬけている。

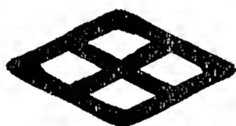
このほか日本鋼管京浜（神奈川）同福山（広島）、新日鉄名古屋（愛知）、三菱レイヨン大竹（広島）、自衛隊勝田（茨城）、富士レジン（兵庫）らの古豪といってもよいチーム、武田薬品光（山口）、大阪ガス（大阪）、日新製鋼呉（広島）、丸善石油下津（和歌山）、山陽パルプ岩国（山口）トヨタ車体（愛知）らの新進チーム。どこもかなりの実力をたくわえている。

特に今秋国体のひかえる丸善石油の堤本、松本、刀称らを中心とした得点力はいい。松川（都島工）、戸田（佐野工）ら有望な新人もかかえている。大山商会戦を乗り切るようだと一気に走る可能性が生まれよう。

トヨタ車体にも注目したい。常盤工業（岐阜）で活躍していた山田、安井の二人と三景（東京）から山本が入社している。この三人でチームの柱ができた。

日新製鋼呉（広島）は下茂、吹上松木らに中川（下関中央工）が加わり若々しい攻撃陣が売りもの。大阪ガスはベテランの味が〝武器〟だ。自衛隊勝田は5月の自衛隊大会優勝チームでもあり斗志が期待される。

合織糸・合織混紡糸



田村紡績株式会社

社長 田 村 正 衛

四日市市東茂福町10－17
TEL 四日市 6－2156（代表）
郵便番号 512

全国有力80チーム新戦力特集

オリンピックまであと1年あまり、国内のムードもいっそう高まりを示している。そこで本誌では恒例の「新戦力展望」を今年は趣向を変えてアンケートと編集部の取材による有力チームの陣容紹介として特集した。古豪、新進入り乱れての激戦がオリンピックへつながる太く強い道になることを期待したい。なお高校チームは男女とも前年度選手権校のみに留めた。（編集部）

○男子（ABC順）

上段のメンバー7人は今シーズンに予想されるレギュラー・メンバー。K＝GK、F＝FPの略、数字は身長(cm)。下段の( )内は出身校

AOK栃木（栃木）

K小　林 170
F宮　田 168
黒　岩 172
小　竹 178
山　田 168
左　藤 170
新　井 173

▽主な新人
新　井（足利工高）

中京大（愛知・東海学連）

K福　井 179
F長　縄 170
小　島 178
夏　目 180
成　田 179
小　川 182
梶　村 174

▽主な新人
ナシ

中央大（東京・関東学連）

K井　上 175
F佐藤(要) 179
佐藤(光) 176
佐々木 176
花　輪 177
白　石 170
田　中 167
(小井土 170)

▽主な新人
上　村（中大付高）
松　本（枚方高）
佐　野（中大付高）
松　下（中大付高）
植　木（関東学院高）
柴　田（中大付高）

千葉教員（千葉）

K川　村 175
F笠　原 168
風　間 172
中　島 174
林 168
八　尋 168
稲　生 164

▽主な新人
八　尋（日体大）
稲　生（日体大）

大同製鋼（愛知）

K柳　川 175
F野　田 169
藤　中 180
加　藤 182
中　井 180
栃　原 165
小　松 165

▽主な新人
中　井（同志社大）
木　村（岐阜西高）
北　村（熊本市商高）

同志社大（京都・関西学連）

K岩　田 176
F松　井 174
水　野 168
藤　井 170
牧　野 174
横　川 175
入　江 170

▽主な新人
入　江（枚方高）
上　田（嵯峨野高）
吉　田（佐世保北高）
早　瀬（津山商高）

富士レジン（兵庫）

K中　谷 176
F林 173
鈴　下 176
小　森 165
河　野 170
狩　山 168
川　水 170

▽主な新人
下　崎（近畿大）
川　水（広高）
小　島（広高）

自衛隊勝田（茨城）

K関　島 178
F新　山 170
日　高 168
高　原 178
小　松 178
押　野 168
増　田 168

▽主な新人
久　保（甘楽農高）

函館工OBクラブ（北海道）

F池　田 171
K木　田 165
浜　田 167
塩　沢 165
海老田 163
幸　崎 163
金　山 178

▽主な新人
幸　崎（函館工高）

法政大（東京・関東学連）

K川　畑 173
F荒井兄 177
小　林 168
小石川 168
田　上 177
長谷川 175
中　村 175
(川　島 175)
(吉　野 182)

▽主な新人
荒井弟（明星高）
矢　島（富岡高）
大　西（安城高）
高　橋（湯沢高）

本田技研鈴鹿（三重）

K戸　田 179
F田　中 174
勝　田 172
星　野 170
小　川 168
末　岡 172
大　下 165
(岩　本 168)

▽主な新人
戸　田（中京大）
勝　田（名城大）
田　中（日大）
宮　川（日大）
森（長崎工）

氷見クラブ（富山）

K中　山 171
F森　田 172
関 167
森(重) 167
沢　武 166
森(貞) 173
海　下

▽主な新人
沢　武（日大）
海　下（氷見高）
森(貞)（氷見高）
裏（氷見高）
中　村（二上工高）

海上自衛隊第3術科学校（千葉）

K末　崎 171
F浜　田 165
神　山 172
鈴　木 171
立　野 166
要　田 182
川　崎 173

▽主な新人
西　田（柳川高）
横　山（足利工高）
柿　崎（長野工高）
岩　本（浜田水産高）

関西学院大（兵庫・関西学連）

K早　島 175
F川　上 168
富　永 178
大　内 178
玉　井 170
小　山 173
梨子木 175

▽主な新人
ナシ

清商クラブ（静岡）

K大石尚 183
(望月雄 181)
F簾　野 165
服　部 172
三ッ井 162
渡　辺 170
岩　崎 175
望月覚 174

▽主な新人
鈴　木（芝浦工大）
望月雄（中央大）
浜　田（清水商高）

高知クラブ（高知）

K仲沢 167
F酒井 178
武田 175
中山 174
沢田 172
青木 165
高橋 171

▽主な新人
酒井（日体大）
沢田（大阪経大）

甲南大（兵庫・関西学連）

K貫野 173
F三宅 177
吉田 172
鷲尾 174
二宮 173
植原 168
和田 177

▽主な新人
刀根（阪南高）
伊藤（宝塚高）
政安（耐久高）
武田（三田学）
木村（千種高）
佐藤（甲南高）
中村（堀川高）

神戸製鋼（兵庫）

K宮永 173
F友広 165
佐藤 165
吉田 172
沖津 173
加藤 175
角谷 170

▽主な新人
前田（兵庫工高）
玉置（柏崎工高）
古川（初芝高）
水野（神港高）

松山商科大（愛媛・中四国学連）

K佐竹 176
F木原 174
島本 165
東 168
大沢 173
大山 176
松浦 163

▽主な新人
古茂田（松山北高）
山口（松山南高）
池田（松山北高）
亀山（丸亀高）
近沢（松山東高）
黒田（松山北高）
近藤（松山北高）

丸善石油下津製油所（和歌山）

K堀江 173
F岸本 167
辻井 171
三木 165
松本 176
刀祢 175
堤本 174

▽主な新人
松川（都島工高）
戸田（佐野工高）
加古（和歌山商）
北畑（笠田高）
村畑（粉河高）

名城大（愛知・東海学連）

K竹内 170
F桑崎 177
飼沼 173
川口 176
福田 170
佐藤 171
田中 178

▽主な新人
佐藤（名城付高）
田中（桜台高）
寺部（安城高）

盛岡商友会（岩手）

K谷藤 169
F新里 183
上川 175
小笠原 172
武藤 168
工藤 164
日影 169

▽主な新人
本田（盛岡商高）
阿部（盛岡商高）

奈良クラブ（奈良）

K松本 165
F鳥井 167
保田 166
細井 172
西村佳 167
岡田 170
西村公 167

▽主な新人
細井（関学大）
稲森（桜井商高）
奥野（桜井商高）
辻（桜井商高）
大羽（同志社大）
瀬川（奈良高）

新居浜工高（愛媛）＝主戦メンバー

K塩田 174
（原 178）
F矢野 168
城賀本 174
栃原 183
土井 173
星田 168
神野 175
（真鍋 175）
（三浦 177）
（白石 177）
（高橋 172）
（桧垣 163）
（大谷 163）

日本大（東京・関東学連）

K内田 175
F細山 171
内山 173
松 176
大町 170
唯根 171
松金 178
（加藤 180）

▽主な新人
上野（氷見高）
金子（佼成学園高）
大隅（有斗高）
吉沢（坂城高）
潮田（石岡一高）

日本発条（神奈川）

K清水 180
F北村 173
小野口 171
福田 170
伊沢 176
石塚 174
高野 181

▽主な新人
小野口（立教大）
井上（横浜一商高）
鈴木（塩山商高）
小川（東京実業高）
仲沢（都留高）

日新製鋼呉製鉄所（広島）

K三田 180
F下茂 176
吹上 170
松木 170
村川 176
吉田 177
中川 168

▽主な新人
中川（下関中央工高）

日進商会（神奈川）

K佐藤 171
F米沢 170
正本 168
永嶋 173
大山 182
出口 172
北橋 179

▽主な新人
山崎（御殿場高）
鈴木（気賀高）
伊藤（気賀高）
金子（山梨園芸高）

日本体育大（東京・関東学連）

K高橋誠 180
F氷海 180
松原 180
岩下 172
佐藤雄 180
松岡 181
小林 165
（池本 173）
（高橋精 165）

▽主な新人
喜井（新居浜工高）
久保田（麻生高）
竹本（三本松高）
橋本（新居浜工高）
都竹（益田高）

岡野バルブ製造（福岡）

K片山 177
F矢島 170
友広 177
酒井 170
坂元 165
寺崎 170
溝口 173

▽主な新人
片山（小倉工高）
寺崎（小倉工高）
溝口（田川工高）

桜丘会（愛知）

K杉山 167
F山田 165
白神 170
大矢 173
高鍬 164
飼沼 166
吉田 165

▽主な新人
ナシ

大阪イーグルス（大阪）

K本田 178
F井上 168
青木 170
福井 173
樫塚 167
河原崎 175
安達 172

▽主な新人
本田（日体大）
安達（日体大）
近藤（日体大）
足羽（日体大）

大阪ガス（大阪）

K梶原 173
F桑山 170
恵美 165
三田 167
辻野 173
見田屋 170
横田 175

▽主な新人
乾
原口
渡辺
（いずれも大阪互斯高等学園）

大阪経済大（大阪・関西学連）

K森友 181
F佐藤 171
橋本広 170
貝原 174
穂積 181
奥川 170
津川 180

▽主な新人
橋本光（星陵高）
二宮（大垣南高）
花井（笠田高）
小川（北陽高）
玉置（桐陰高）

大山商会（大阪）

K川原 180
F中村 170
奥川 175
前島 177
佐藤 168
伊藤 177
山口 170

▽主な新人
大和（大阪体大）
大西（添上高）

大阪体育大（大阪・関西学連）

K逢　坂　175
F入　山　173
藤　井　174
中　田　169
白　柳　177
坂　本　175
中　村　178

▽主な新人
宇尾野（四日市工）
北　尾（添 上 高）
勝　村（武 庫 工）
三　浦（天 草 工）
野　路（羽 水 高）
藤　田（兵 庫 工）
山　内（兵 庫 工）

大崎電気工業（埼玉）

K下　里　184
（岩　下　175）
F近　藤　170
飯　田　187
籏　野　176
東　181
谷　口　178
佐　藤　178
（沢　田　175）
（　林　185）
（近　森　184）

▽主な新人
ナシ

立教大（東京・関東学連）

K馬　淵　179
F安　井　171
片　山　170
鈴　木　170
籾　山　169
矢　吹　170
吉　本　170
（菅　間　176）

▽主な新人
伊　藤（仙台二高）

琉球大（沖縄・九州学連）

K屋　比　174
F友　寄　172
安　里　165
城　間　176
小波津　173
上原勇　179
赤　嶺　167

▽主な新人
新　崎（宮古高）
大　城（糸満高）
玉　城（首里高）
高　山（小禄高）
上原俊（小禄高）
宜　保（小禄高）

境港市役所（鳥取）

K松　本　181
F井　田　165
門　永　167
武　良　175
宮　辺　176
松　本　184
門　永　174

▽主な新人
ナシ

埼玉教員ク（埼玉）

K高　橋　175
F高　戸　178
高　田　172
結　城　172
北　井　175
上久保　175
河　住　172
（中島朋　170）

▽主な新人
中島雄（国士舘大）

三景（東京）

K西　牧　176
F喜　田　177
植　田　174
武　井　174
高　梨　173
内　藤　173
山　原　173

▽主な新人
植　田（中央大）
大　井（大月高）

山陽パルプ（山口）

K岡　村　173
F大　橋　170
善　本　170
野　村　173
織　田　173
上　野　175
長　174

▽主な新人
ナシ

芝浦工業大（東京・関東学連）

K吉　田　176
F木　全　170
森　182
明　石　178
大　江　172
新　実　180
細　江　177

▽主な新人
吉　田（日 野 高）
門（都島工高）
黒　田（足利工高）
三　部（安 積 高）
宮　保（高 岡 高）
古川（多治見北高）

住友化学菊本（愛媛）

K藤　田　180
F加　藤　177
落　海　174
金　剛　180
伊　藤　167
神　代　165
白　石　169

▽主な新人
千　載（神 戸 大）
曽我部
（新居浜工高）

スワロー兵庫（兵庫）

K上　野　170
F北　山　175
井　上　174
畑　178
浜　野　170
木　野　174
大　原　174

▽主な新人
黒　田（日 体 大）
上　田（大阪体大）
中　村（日 体 大）
藤　崎（大阪体大）

セントラル自動車（神奈川）

K吉　賀　172
F中　村　175
羽毛田　169
若　崎　175
峰　175
加　藤　177
小　沼　164

▽主な新人
石垣（仙台育英高）
片　桐（大石田高）
加　瀬（八千代高）
佐　藤（小 野 高）
清水（北佐久農高）
新海（北佐久農高）
吉　沢（坂 戸 高）

田原外郎クラブ下関（山口）

K松　木　177
F村　岡　178
中　川　174
稗　田　170
吉　村　173
皆　本　168
広　井　175

▽主な新人
梶　山
（下関中央工高）
田　中
（下関中央工高）
小　山
（下関中央工高）
桜　井（山 口 高）

武田薬品光（山口）

K清　水　167
F長　棟　163
酒　井　175
仁　科　167
末　長　172
和　田　183
三　宮　163

▽主な新人
和　田（下松工高）
清　水（下松工高）
三　宮（鶴崎工高）

東北大（宮城・東北北海道学連）

K生　駒　172
F上　野　175
梅　原　173
堀　合　168
保　原　167
白　鳥　178
山　形　172

▽主な新人
千　葉（仙台一高）
佐藤正（古 川 高）
佐藤和（仙台二高）
山　内（福 島 高）
山　上（青 森 高）
鬼　頭（岐阜北高）
矢島（松本深志高）

常盤工業（岐阜）

K日　比　175
F丹　羽　170
黒　木　170
西　172
馬　場　165
井　深　165
石　丸　162

▽主な新人
馬　場（岐阜東高）
井　深（岐阜南高）

東京教育大（東京・関東学連）

K仲　尾　177
F高　橋　175
綿　引　168
杉　山　173
横　島　171
新　美　172
土　井　168
（松　尾　160）
（溝　上　170）

▽主な新人
村松（西尾高）

東京教員クラブ（東京）

K綿　貫　175
F浅　野　164
小　山　175
平　岡　185
大　西　176
藤　原　171
高　野　169

▽主な新人
大　村（日体大＝予定）

富山大（富山・北信越学連）

K川　原　174
F高　長　168
青　木　173
田中邦　170
田中武　172
木　津　168
鈴　木　172

▽主な新人
開保津（高岡高）
渡　辺（富山高）
宮　下（上田高）

トヨタ車体（愛知）

K遠　山　175
F山　田　165
山　口　175
松　本　171
幸　170
安　井　170
山　本　173
（村　田　171）

▽主な新人
山　田（芝浦工大）
安　井（中 京 高）
～両選手は前常盤工業～
山　本（中 京 高）
～同選手は前三景～

湧永薬品（大阪）

K今 井 178
F市 原 180
木 野 180
早 川 180
高 橋 168
森 174
戸 田 173
（藤 井 178）

▽主な新人
阿 波（広島商大）
田 中（明石高）
国 体（北陽高）

○女子

（ＡＢＣ順）

ブラザー工業（愛知）

K佐 藤 168
F金 村 158
黒 瀬 157
藤 田 155
長 塚 161
藤 浪 161
山 田 160

▽主な新人
原 川（島原農高）
平 （島原農高）
鳥 居（吉原高）
森 本（広島一女商高）
森 （半田商高）
新 美（半田商高）

中京女子大（愛知・東海学連）

K宅 永 161
F大 崎 150
小 崎 154
大 城 155
安 井 158
川 北 159
酒 井 162
松 本 152

▽主な新人
浜 崎（山田高）
坂 番（四日市農）

甲子園大（兵庫・関西学連）

K柿 田 163
F辻 168
乗正房 162
和 歌 164
白 井 153
継 田 151
宮 田 160

▽主な新人
乗正房（住吉学園高）
白 井（徳山高）
継 田（六郷高）
北 川（守山女高）
宮 方（梅花女高）
楠 （箕面高）
上 島（精華女高）

早稲田大（東京・関東学連）

K吉 田 179
F高 橋 176
島 田 178
加 藤 180
菊 池 185
伊 谷 165
渡 辺 173
（長谷川 172）
（脇 若 180）
（浦 山 174）

▽主な新人
菊 池（盛岡一高）
脇 若（加納高）
川 畑（松蔭高）

中京大（愛知・東海学連）

K横 井 160
F田 島 159
宮 田 167
佐 竹 159
藤 井 157
村 勢 159
林 167

▽主な新人
藤 井（揖斐高）
林 （玉島高）
藤 原（近大附高）
佐々木（三条高）
和 多（福山高）
下 津（坂出高）
松 本（春日井高）

鹿児島ク（鹿児島）

K松 田 166
F古 江 153
有 馬 156
肥 田 160
水 上 156
稲 田 153
姫 野 160

▽主な新人
水 上（東女体大）
松 田（東女体大）
肥 田（加治木高）

水海道二高（茨城）＝主戦メンバー

K塚 原 157
F佐戸井 160
野 口 159
小田部 154
渡 辺 160
木 村 156
小 田 156
（国府田 155）
（山 口 160）
（小 島 163）
（戸 塚 161）
（海老沼 161）
（野 口 160）

日本ビクター（茨城）

K渡 辺 162
F蓮見姉 168
江 川 158
八重樫 163
谷 沢 164
蓮見妹 163
阿 保 160

▽主な新人
渡 辺（水海道二高）
鈴 木（昭和学院高）
富 山（水海道二高）
谷 沢（水海道二高）
黒 川（水海道二高）
山 口（室蘭商高）
川 崎（石岡二高）

日本体育大（東京・関東学連）

K大工原 162
F永 田 163
赤 塚 155
小 貫 157
木 村 159
嶋 田 153
福 田 158

▽主な新人
古閑（熊本市立高）
石黒（豊中高）
菅井（宮城二女高）
松本（佐世保商店）
坂上（登別高）

寝屋川クラブ（大阪）

K竹 林 158
F岩 本 160
魚住早 163
津 熊 152
中 野 160
魚住汎 158
北 林 162

▽主な新人
畑 中
河 合
名 賀
北 川
谷 垣
坂 倉
竹 林
（いずれも寝屋川高）

大阪スターズ（大阪）

K小 林 159
F田 井 160
射 場 160
古 川 165
山 崎 152
細 川 157
松 井 159

▽主な新人
吉 田（住吉学園高）
林 （鶴見商高）
吉 川（岸和田高）
森 田（岸和田高）

大崎電気工業（埼玉）

K和 田 152
F新 島 167
寺 尾 153
三 浦 159
長谷川 165
佐 藤 167
岩 井 157

▽主な新人
西村（夙川学院）
木村（長崎北松高）

大谷クラブ（大阪）

K寺 林 167
F高 山 158
中 村 154
河 野 160
辻 江 165
吉 元 160
二 村 155

▽主な新人
辻 江
吉 元
二 村
浅 田
岡 西
吉 川
（いずれも大谷高）

大洋紡績（岐阜）

K上 杉 160
F山 根 159
平 野 163
上 野 155
矢 島 164
山 本 160
大 浦 156

▽主な新人
上 杉（山陽女高）
平 田（山陽女高）
首 藤（明徳商高）
藤 村（益田高）

大洋デパート（熊本）

【A】
K小 原 163
F枝 尾 157
垂 水 163
三 宅 156
米 162
渡 辺 158
島 田 165

【B】
K森 山 159
F小 林 157
村 中 165
釼 155
蔵 田 163
斉 藤 158
植 原 156

▽主な新人
森 山（島原農高）
石 井（神埼農高）
篠 田（下関西高）
内 川（佐世保商高）
山 下（天草農高）
桑 畑（宮崎泉ケ丘高）

（注）Aチームの7選手はいずれも世界選手権代表のため7月12日以降国内試合出場規制をうける。

田村紡績（三重）

K久 保 161
F三 毛 164
金 田 158
久保田 155
辻 154
広 森 165
知 念 148

▽主な新人
ナシ

東京重機工業（東京）

K長 岡 160
F滝 口 156
鷲 谷 153
牧 野 162
村 上 163
市 川 158
古佐原 151

▽主な新人
小 沢（青森西高）
対 馬（青森西高）
生 井（小山城南高）
荒 木（神埼農高）
市 山（山陽女高）

東京女子体育大（東京・関東学連）

K増 田 161
F高 橋 161
堀 江 160
川 井 164
勇 次 152
西 田 154
岩 間 154
（塩 谷 156）
（本 告 165）

▽主な新人
西 田（広島一女商）
本 告（神埼農高）
神 崎（九州女学院）
石 塚（水俣高）
石 井（北鎌倉高）

東京教育大（東京・関東学連）

K黒 田 168
F渡 辺 163
韮 沢 156
岡 田 154
継 152
山 本 159
坂 倉 158
（川 島 160）

▽主な新人
東（学芸大付高）
名 賀（寝屋川高）

東北ムネカタ（福島）（旧・東北宗形製作所）

K続 橋 162
F伊 賀 156
日 下 153
後 藤 159
小 泉 162
渡 部 154
遠 藤 151
（塩 田 160）

▽主な新人
遠 藤（石川高）
藁 谷（石川高）

全和洋（秋田）

K舟 山 165
F松 岡 156
秋 元 156
阿 部 160
高 橋 160
桜 田 163
富 樫 167

▽主な新人
堀 井
菊 地
松 橋
（いずれも和洋高現役からの参加）

勝田施設学校(陸上)が２度目の優勝

第３回全日本自衛隊選手権は５月15，16日の２日間東京駒沢第一球技場に全国から24チーム（うち不参加６）のエントリーを得て開かれた．決勝は第１回につづいて勝田族設学校一海上鹿屋の陸海を代表するチームの対戦となり延長の末勝田が勝って２度目の優勝を飾った．

なお，今大会から女子の部が生まれ３チームがエキジビションを行った．

第３回全日本自衛隊選手権終わる

▽男子１回戦

海上徳島（徳島）15（7−3 8−3）6 31連隊（陸、埼玉）

てるづき（海・神奈川）20（11−3 9−4）7 陸上三宿（東京）

第三術科学校（海・千葉）15（7−5 8−4）9 陸上十条（東京）

体育学校（東京）10（3−4 7−5）9 霞分航空生徒隊（陸、茨城）

陸上春日井（愛知）不戦勝 海上武山（神奈川）

海上下総（千葉）不戦勝 航空入間（埼玉）

海上宇都宮（栃木）不戦勝 陸上武山（神奈川）

施設学校生徒（陸・茨城）不戦勝 海上館山（千葉）

○……体育学校×霞がもつれた。霞は前半エース建村が一人で４点を叩き出し優位に立った。後半は一進一退、14分体育学校は８−８のタイとしさらに17分黒崎のゲットで逆転した。しかし霞も19分厚見のゴールで４度び同点となり延長必至とみられたが体育学校ははタイムアップ直前沢村が決勝点を奪った。このほか第三術科学校×陸上十条が好内容の展開をみせた

陸上宇都宮、海上下総降す

▽同２回戦

勝田施設学校（陸・茨城）20（11−2 9−4）6 海上徳島

陸上宇都宮（栃木）12（6−6 6−2）8 海上下総

第三術科学校 13（8−2 5−4）6 航空百里（茨城）

海上宇都宮 18（11−3 7−4）7 富士学校（陸、静岡）

陸上久里浜（神奈川）14（6−4 8−3）7 体育学校

海上鹿屋（鹿児島）22（10−3 12−2）5 陸上春日井

てるづき 棄権 陸上仙台（宮城）

施設学校生徒 棄権 第１施設団（東京）

○……陸上宇都宮×海上下総が好試合だった。互角の戦況で後半８分まで進み９−８と宇都宮がリード。このあと下総が再三チャンスを逸したのに対し、宇都宮は９分品田のゴールで優位となり14分石川（７ＭＴ）、18分相川がダメを押して下総を押し切った。

陸上久里浜×体育学校は前半終了まぎわ久里浜が貴重な２点をあげ主導権を握った。体育学校は後半３分１点差に追いこんだが久里浜はそのあと連続４ゴールして勝負を決めた。

海上勢３強勝ち進む

▽同準々決勝

勝田施設学校 21（9−6 12−5）11 てるづき

○……立ちあがりは互格に進んだが、11分４−４のあと勝田は日高小松、高原が連続ゴールして優位に立ち以後はガッチリ試合の主導権を放さなかった。

「てるづき」も桶森の巧技を中心によく反撃したが、勝田の地力には一歩をゆずった。

海上宇都宮 22（10−6 12−2）8 陸上久里浜

○……前半15分まで４たびの同点をくりかえしたが、残り４分間に宇都宮は鈴木の活躍などで４点をあげ、善戦する久里浜を突き放した。

第三術科学校 13（7−5 6−3）8 陸上宇都宮

○……好勝負だった。第三が前半10分４−１と差をつけた時はそのままのペースで進むかにみえたが宇都宮は石川の連続得点で盛り返し勝負を後半にかけた。

しかし、後半開始直後第三は１分神山のゲットを口火に３点を重ねて10−５とダブルスコア、優位を動かないものにした。第三がムラのない攻撃力を備えていたのに対し宇都宮は得点力が石川に片寄りすぎていた。

海上鹿屋 20（9−1 11−3）4 施設学校生徒

○……鹿屋の一方勝ち。２分近藤の好プレーで先制点をあげてから一気に９ゴールして大勢はあっさり決まってしまった。後半も鹿屋が押しまくり、施設は散発的に４点を返しただけだった。

この結果ベストフォアには海上３、陸上１が勝ち残り海上勢の層の厚さは定評どおりのものとみえた。

勝田、後半に勝負決める

▽同準決勝

勝田施設学校 13（5−2 8−3）5 第三術科学校

○……前半はまったくの〝貧打戦〟。15分をすぎて互いに２点づつ入れあっただけでわずかに勝田

が走り勝って20分すぎから3ゴールした。

【第三】		得
GK	末崎	0
	後藤	0
FP	浜田	0
	川崎	1
	横山	0
	立野	1
	鈴木	0
	西田	0
	要田	3
	柿崎	0
	神山	0

（審・岡前 大塚）

【勝田】		得
GK	山口	0
FP	平山	2
	増田	1
	新山	1
	小松	0
	日高	3
	高原	5
	押野	1
	久保	0
	永瀬	0
	富永	0

13（1）7MT（2）5

後半第三も積極的な攻撃でなんとか追いつこうとしたがエリア前での詰めが甘く、シュート力にももう一つ鋭さがなかった。スピード豊かなだけにコンビがとれれば戦力は〃倍増〃しよう。

勝田はさすがに試合運びが巧く脚力もあり、全員余裕のあるプレーで後半10分以後は圧倒的な試合ぶりであった。（岡前）

鹿屋、多彩な展開示す

海上鹿屋 26（11—4 15—7）11 海上宇都宮

【宇都】		得
GK	石井	0
FP	町田	5
	吉川	0
	佐勝	1
	中一	1
	田辺	2
	荒井	1
	今村	0
	村上	1
	江田	0
	瀬平	0

（審・勝 雨海）

【鹿屋】		得
GK	中薗	0
FP	二川	0
	沢山	4
	地主	5
	山崎	0
	近藤	4
	奥原	5
	松尾	0
	多衛野	0
	中水流	8
	下村	0

26（2）7MT（0）11

○……前半10分3—2のあと鹿屋は地主の連続得点で5—2と主導権を握るチャンスをつかみ、ディフェンスを固めて慎重な試合ぶり

鹿屋がこの機を逃さなかったのはみごとである。15分7—3、20分10—3と点差は確実に開いてここで勝負は決まったといってもよいだろう。

後半も鹿屋は10分までに8点をたたき出したがゴール前でのセットプレーは多彩で練習量の多さを思わせた。（勝）

延長の熱戦、勝田逆転勝ち

▽同決勝

勝田施設学校 17（5—5 8—8 ： 0—1 4—0）14 海上鹿屋

【鹿屋】		得
GK	中薗	0
FP	二川	0
	沢山	1
	地主	0
	近藤	5
	奥原	6
	松尾	0
	多衛野	0
	中水流	2
	下村	0
	山崎	0

（審・雨海 鈴木）

【勝田】		得
GK	山口	0
FP	平山	0
	増田	0
	新山	5
	小松	1
	日高	4
	高原	5
	押野	2
	久保	0
	永瀬	0
	富永	0

17（1）7MT（1）14

○……決勝にふさわしい熱戦であった。前半はわずかに鹿屋が優勢で20分には4—2とリードを奪った。しかし勝田もタイムアップ前の3分間に粘り5—5で後半を迎えた。後半1分勝田は新山、6分鹿屋は沢山がそれぞれ得点、再び互格のスタートを切ったが、キャリアに優る勝田はそのあと高原の好技などで11分には9—7と優位に立った。

○……鹿屋もひるまず12分近藤、13分奥原（7MT）で振り出しに戻しその後は一進一退、20分12—12と七度目のタイスコア。24分勝田は日高が均こうを破る1点をあげこれで勝負あったかにみえたが逃げこみを意識してスキが生まれタイムアップ寸前近藤に同点のゴールを許して延長へもつれこんだ

○……延長前半1分、鹿屋は奥原のゲットで待望の先行点を得たが延長後半になると勝田は持ち前の粘りをいかんなく発揮、日高が20秒に同点、1分に逆転のシュートを鮮やかに決め、さらに2分と4分50秒新山がダメ押しのゴールを奪ってみごとに優勝を決めた陸海を代表する強豪の対決は見応えがあったがともに個人技に頼る場面が多く、今後の課題として残ろう。（雨海）

▽女子リーグ（エキジビション）

中央病院（東京）7（3—2 4—3）5 NC養成所（東京）

NC養成所 9（6—0 3—2）2 三宿（東京）

中央病院 5（2—3 3—2）5 三宿
引き分け

【順位】①中央病院看護学生②NC養成所③三宿

▽男子コンソレーション・マッチ

霞分航空生徒隊 15—7 陸上春日井

海上徳島 16—4 陸上宇都宮

陸上十条 10—8 陸上三宿

陸上久里浜 17—13 陸上宇都宮

大会を顧みて

安藤純光

参加チーム数も回を重ねるごとに増加し、今回は男子24チームをかぞえた。また3チームの女子チームの参加があり、大会にまさに花をそえた。チーム数の増加が技術の進歩に全くイコールにはならないであろうが、しかしレベルアップにはチーム数の増加がより高い頂点を築きあげることになるであろう。

事実今大会の決勝戦は、最後まで勝敗の行方は予断することができない好ゲームとなった。遠来の鹿児島鹿屋（海）は、過去の大会で絶対の地位をほこっていた勝田（陸）に食いさがり、延長戦にまでもちこんだが惜しくも力つきて敗れた。決勝戦は陸海の対決ということもあってか、両チームとも大いにハッスルし、ともに技術的に可成り高度なものを出しあった全くの好ゲームであった。

女子は、初参加でもあり、まだまだの感が強いが、全体的に恵まれた体軀をもっているので、今後のトレイニング如何によっては大きな進歩を期待できるであろう。

日程的に、これだけのチーム数が参加して2日間という短時間では運営に無理がある。競技時間を短縮しても1日3ゲームは、無理である。今後の課題であろう。

（日本協会審判部長）

春季学生界主要記録

各地の優勝校

・東北北海道　東北大
・関東　日体大
・関西　大阪経大
・九州　熊本商大
・関東女子　日体大
・北信越　6月開催
・東海　中京大
・中四国　松山商大
・東海女子　中京女大
・関西女子　大阪体大

東北・北海道

東北大、仙台大破り優勝
北海道勢4校が登場

◇第5回東北・北海道学生春季大会（秋との通算第20回）◇5月1～3日◇札幌北大体育館◇参加11校

昨年あたりから動きの活発となった北海道勢4校が参加、その試合ぶりが注目された。室蘭工大が東北学院と延長の激戦を演じ惜しくも抽せん負けとなるなど各校とも健闘、今後に楽しみを残した。

決勝トーナメントは予想どおりの顔ぶれが揃い試合運びに優る仙台大―東北大の宮城同士が優勝を争った結果、東北大が序盤から巧みな攻撃で優位に立ち、後半も大量点をあげて快勝、2年ぶり3回目（秋との通算6回目）の優勝を飾った。

▽予選リーグA組
福島大　22―7　釧路教育大
福島大　9（分）9　岩手大
岩手大　23―12　釧路教育大

▽同B組
東北大　42―9　小樽商大
東北大　23―9　山形大
山形大　12―11　小樽商大

▽同C組
仙台大　27―22　北大
仙台大　31―14　東北工大
北大　29―11　東北工大

▽同D組（2校）
東北学院　14（分）14　室蘭工大
抽せんで東北学院大の勝ち

▽9～11位決定戦
釧路教大　24―15　小樽商大
東北工大　14―10　釧路教大
東北工大　15―14　小樽商大
⑨東北工大⑩釧路教大（北海道教大釧路分校）⑪小樽商科大

▽5～8位決定戦1次戦
岩手大　16―7　山形大
北大　16―5　室蘭工大

▽7・8位決定戦
山形大　14―13　室蘭工大

▽5・6位決定戦
岩手大　16―14　北大

▽決勝トーナメント1回戦
東北大　17（8―5　9―5）10　福島大
仙台大　17（10―5　7―7）12　東北学院

▽3・4位決定戦
東北学院　14（10―2　4―3）5　福島大

▽決勝戦
東北大　19（6―3　13―7）10　仙台大

今年の全日本学生割当数

全日本学連ではこのほど今秋11月3日から東京駒沢で開く第14回（女子第7回）全日本学生選手権の男女学連別出場校割り当て数を次のように決め発表した。

▽男子（32校）＝前年度優秀校2（日体大、同志社大）関東9、関西7、東海4、九州3、東北北海道3、中四国2、北信足2

▽女子（16校）＝関東6、関西6
東海4

関東（男子）

日体、中央を振切る　23回目の優勝
3位に3校（芝工大・法大・早大）が並ぶ

◇4月24日～5月8日◇1・2部＝駒沢屋内球技場、3・4部＝駒沢第一球技場◇参加1部8校、2部8校、3部8校、4部12校

1部は前半を終って、日体、中央の全勝を芝浦工大、法政が追った。第5日の日体―法政、中央―芝浦はともに大激戦となり日体、中央が気力の逆転勝ちに成功、特に中央は一時5点差をつけられながら勝利を握ったものでこの2試合は久々に見るスリリングな好内容であった。

第6日5勝同士の日体―中央は意気あがる中央の健闘からエキサイトした好試合を展開、一進一退の経過から後半なかば日体が得意の速攻を連続させて優位に立ち食い下る中央を振り切った。日体は最終日の芝浦工大戦にも順当勝ちして7戦全勝、5シーズン連続23回目の優勝を飾った。日体大は関東学生リーグで44年春の東京教大戦以来1引分（44年秋・法政大戦16―16）をはさんで34連勝をマークした。

3位争いも激烈。芝浦、法政、早稲田が勝率で並び得失点差で順位がついたが、3校とも調子の波の荒さが除かれれば秋には優勝戦線に充分食いこめる戦力をもって



（関東学生春季リーグ　日体大—中央戦から）

いる。

下位はテールエンドをまぬがれようとする3校がそれなりの接戦を演じたが迫力が乏しく、「1部6校説」が再燃されそうな気配。立教が最下位に落ちたのは34年秋以来のこと。

2部はダークホースの東京学芸大が初優勝した。各校とも不安定な戦力のなかで同校はまとまりのある攻守を示し、前半4日間に国士館、明星、明治、慶応をなぎ倒し首位を確定づけた。44年秋2部昇格以来4シーズン目のことである。3部は千葉工大と一橋がともに6勝1分で並び優勝決定戦の末千葉工大の初優勝となった。

4部はA・B各組6校によるリーグ戦のあと同位同士が順位決定戦を行ったが都立大が横浜商科大を制し初優勝した。

なお、今シーズンから得点王制度（各部）が設けられ初の1部得点王は松喜美男選手（日大、函館有斗高出）に決定した。2部は上野（国士館大）、3部は徳光（一橋大）4部は角（都立大）の各選手。

リーグ戦後行われた各部入れ替え戦では千葉工大、都立大の昇格が決まったが、1〜2部戦では立教が東京学芸大の反撃をかわして辛勝、1部に残留した。

▽1部

日体 21（11—4、10—5）9 東京教大

芝浦工大 25（10—10、15—8）18 日大

中央 27（18—6、9—1）7 立教

早稲田 12（7—4、5—7）11 法政

得	【早大】		【法政】	得
0	吉田	GK	川畑	0
		GK	佐藤	0
1	高橋	FP	荒井	3
3	島田	FP	小林	2
0	長谷川	FP	中村	0
4	菊池	FP	小石川	0
1	渡辺	FP	田上	1
2	加藤	FP	長谷川	5
1	脇若	FP	吉野	0
0	浦山	FP	川島	0
0	伊谷	FP		
0	小松原	FP		
12	(0)	7MT	(2)	11

法政 28（14—10、14—7）17 立教

日体 22（10—6、12—6）12 日大

芝浦工大 23（11—7、12—3）10 東京教大

中央 18（10—5、8—7）12 早稲田

芝浦工大 23（14—5、9—3）8 早稲田

中央 17（8—5、9—2）7 東京教大

日体 26（11—2、15—4）6 立教

法政 21（11—9、10—6）15 日大

中央 23（12—5、11—1）6 日大

日体 17（6—1、11—1）2 早稲田

法政 27（13—9、14—7）16 東京教大

得	【法政】		【教大】	得
0	川畑	GK	仲尾	0
0	佐藤	GK		
11	荒井	FP	高橋	3
3	小林	FP	綿引	1
3	中村	FP	杉山	3
2	小石川	FP	横島	5
7	田上	FP	新美	2
0	長谷川	FP	松尾	0
0	吉野	FP	溝上	0
1	川島	FP	土井	2
0	井手	FP	村松	0
0	柳	FP		
27	(2)	7MT	(0)	16

芝浦工大 14（8—1、6—8）9 立教

日大 18（12—5、6—4）9 立教

得	【日大】		【立教】	得
0	内田	GK	馬淵	0
0	内山	FP	安井	0
5	細谷	FP	片山	4
2	加藤	FP	鈴木	0
10	松	FP	籾山	0
0	唯根	FP	矢吹	4
0	松金	FP	吉本	1
0	小吹	FP	管間	0
0	古沢	FP	荒木	0
1	大町	FP		
0	水越	FP		
18	(3)	7MT	(0)	9

早稲田 22（9—3、13—3）6 東京教大

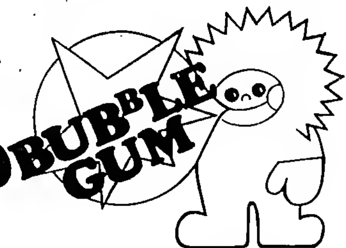
日体 12（6—3、6—7）10 法政

中央 19（11—3、8—2）15 芝浦

得	【中央】		【芝浦】	得
0	井上	GK	吉田	0
9	佐藤要	FP	木全	0
0	佐藤光	FP	森	2
0	上村	FP	明石	4
6	佐々木	FP	大江	3
1	花輪	FP	新実	5
1	白石	FP	細江	0
2	田中	FP	門	1
0	村田	FP	黒田	0
0	塩田	FP	三部	0
19	(4)	7MT	(1)	15

東京教大 16（9—5、7—5）10 立教

早稲田 25（17—5、8—4）9 日大





法政 18 (8-7 10-9) 16 芝浦工大

日体 13 (8-5 5-6) 11 中央

【中央】	得		得	【日体】
井上	0	GK	0	高橋誠
佐藤要	3	FP	1	氷海
佐藤光	0		3	松原
佐々木	4		3	小林
花輪	2		0	佐藤雄
白石	1		1	岩下
田中	1		4	松岡
村田	0		0	池本
上村	0		1	佐藤富
今関	0		0	浅原
塩田	0		0	藤田
11	(0)	7MT	(1)	13

日大 17 (10-8 7-8) 16 東京教大

早稲田 22 (13-3 9-2) 5 立教

中央 16 (8-8 8-3) 11 法政

日体 13 (3-7 10-3) 10 芝浦工大

【芝浦】	得		得	【日体】
吉田	0	GK	0	高橋
木全	1	FP	5	氷海
森	2		1	松原
明石	0		2	佐藤雄
大江	4		1	佐藤富
新実	3		0	池本
細江	0		0	岩下
門	0		2	松岡
黒田	0		2	浅原
三部	0			
宮保	0			
10	(2)	7MT	(1)	13

【順位】①日体大7戦全勝②中央大6勝1敗③芝浦工大・法政大・早稲田・4勝3敗⑥日大2勝5敗⑦東京教大1勝6敗⑧立教大7敗

【2部順位】・東京学芸大6勝1敗②国士館大5勝1敗1分③明治大4勝2敗1分④防衛大・明星大4勝3敗⑥慶応大3勝4敗⑦順天堂大1勝6敗⑧関東学院大7敗

【3部順位】・千葉工大5勝1敗1分②一橋大5勝1敗1分(優勝決定戦 千葉工大22―16一橋大)③東海大・武蔵工大5勝2敗⑤千葉商科大2勝4敗1分⑥独協大2勝5敗⑦東大1勝5敗1分⑧茨城大1勝6敗

【4部〜順位決定戦結果〜】①都立大②横浜商科大③成蹊大④上智大⑤千葉大⑥山梨大⑦専修大⑧東京理科大⑨明治学院大⑩青山学院大⑪東京農工大⑫流通経済大(棄権)

立教、学芸大を退ける

▼各部入れ替え戦(5月15日・駒沢屋内球技場)

▽3・4部

都立大(4部) 19―14 茨城大(3部)

▽2・3部

千葉工大(3部) 19 (11-8 6-9 1-0 1-0) 17 関東学院(2部)

▽1・2部

立教(1部) 11 (6-6 5-4) 10 東京学芸大(2部)

関東(女子)

日体大、24回目の優勝
東京教大が初の2位に

◇4月24日〜5月8日◇駒沢屋内球技場◇参加4校

東京教大が東女体大から初勝利をあげる波乱の幕あけとなり、結局第4日の日体—東京教大が〝決勝〟。

地力に優る日体は小貫—木村のコンビを中心に前半でソツなくリード点を奪い先行し、後半も東京教大の反撃を巧くかわして快勝36年秋の復活以来20シーズン連続、通算24回目の優勝という快挙を遂げた。

2位には東京教大が初めて進出8シーズン2位の座にあった東女体大と入れ替った。名門日女体大がメンバー不足から欠場したのはさびしい。秋には復帰する。得点王は木村正子(京都精華女高—日体大)だった。

東京教大 7 (4-1 3-5) 6 東女体大

【東女】	得		得	【教大】
増田	0	GK	0	黒田
			0	松井
堀江	2	FP	0	渡辺
川井	1		4	韮沢
勇次	0		0	岡田
岩間	0		2	継
塩谷	0		0	山本
西田	2		1	坂倉
本吉	1		0	川島
屋良	0		0	畑中
神崎	0		0	橋本
			0	松本
6	(0)	7MT	(0)	7

日体大 21 (11-1 10-0) 1 東京学芸大

【学芸】	得		得	【日体】
小村	0	GK	0	大工原
			0	丸茂
浅井	1	FP	1	永田
川島	0		5	赤塚
長嶺	0		3	小貫
岩瀬	0		4	木村
山元	0		4	島田
初見	0		2	福田
大野	0		0	八木
			1	岩本
			1	小林
1	(0)	7MT	(0)	21

東女体大 7 (6-1 1-2) 3 東京学芸大

日体 11 (7-4 4-0) 4 東京教大

【教大】	得		得	【日体】
黒田	0	GK	0	大工原
渡辺	1	FP	0	永田
韮沢	1		1	赤塚
岡田	0		4	小貫
継	1		3	木村
山本	0		1	島田
坂倉	0		2	福田
川島	1		0	八木
畑中	0		0	岩本
橋本	0		0	小林
4	(1)	7MT	(0)	11

東京教大 7 (3-1 4-0) 1 東京学芸大

日体 12 (6-3 6-0) 3 東女体大

【順位】①日体3戦全勝②東京教大2勝1敗③東京女体大1勝2敗④東京学芸大3敗

(注)日女体大は不参加

中京、圧倒の2連勝

東海(男子)

◇4月24日〜5月3日◇愛知県体育館ほか◇参加1部6校、2部6校、3部3校

中京が今シーズンも文句なしの全勝をとげた。注目の名城戦も前半こそ名城の組織的プレーに悩まされたが、ディフェンスが立ちなおった後半は長身選手を中心にしたダイナミックな速攻で一気に勝負を決めた。2シーズン連続22回目の優勝。春季は2年ぶり。

2部は予想どおり中部工大が優勝(5回目)したが全般に1部との差が目立ちものたりなかった。3部は3校2回戦制リーグで行わ

れ愛知工大が初優勝を飾った。

▽1部

中京 29（18－3、11－4）7 南山
岐阜大 16（8－9、8－5）14 名大
名城 26（13－3、13－8）11 愛知教大
中京 21（12－4、9－4）8 名大
名城 20（9－5、11－3）8 南山
愛知教大 15（7－3、8－7）10 岐阜大
愛知教大 17（11－6、6－8）14 南山
名城 25（17－3、8－0）3 名大
中京 22（11－1、11－2）3 岐阜大
愛知教大 7（3－4、4－2）6 名大
岐阜大 17（11－7、6－4）11 南山
中京 18（11－5、7－6）11 名城

【名城】	得		得	【中京】
竹内	0	GK	0	福井
高橋	0	GK	0	小林
桑島	2	FP	2	長縄
飼沼	6	FP	2	小島
福田	1	FP	0	小玉
川口	0	FP	0	谷口
阪野	0	FP	5	夏目
森	0	FP	2	成田
石塚	0	FP	2	小川
松井	0	FP	5	梶村
佐藤	1	FP	0	渡辺
田中	1	FP	0	三浦
	11	（0）7MT（0）	18	

（審・宇津野・松井）

名大 18（9－4、9－4）8 南山
名城 19（14－3、5－5）8 岐阜大
中京 26（14－8、12－4）12 愛知教大

【順位】・中京大5戦全勝②名城大4勝1敗③愛知教大3勝2敗④岐阜大2勝3敗⑤名古屋大1勝4敗⑥南山大5敗

【2部順位】①中部工大5戦全勝・静岡大4勝1敗③名古屋工大3勝2敗④三重大1勝4敗（得失点差マイナス13）⑤愛知大1勝4敗（マイナス35）⑥名古屋学院大1勝4敗（マイナス55）

【3部順位】①愛知工大勝ち点3.5（3勝1分）②滋賀大1.5（1勝1敗2分）③県立三重大1（1勝3敗）

南山残留、愛工大2部へ

▼各部入れ替え戦（5月9日・南山大）

▽1～2部

南山（1部）12（8－3、4－6）9 中部工大（2部）

▽2～3部

愛知工大（3部）20－16 名古屋学院（2部）

愛知工大の2部昇格は初めて。

東海学生選抜軍を編成

東海学連は春季リーグ戦後、恒例の東海学連選抜軍（男子）のメンバーを次のように決め発表した

▽監督　勝瀬幸貞（名城大監督）▽コーチ　横井保信（中京大コーチ）▽選手　GK福井（中京大）、竹内（名城大）、坂部（名工大）、FP長縄、小島、夏目、成田、小川、梶村（以上中京大）、桑島、飼沼、川口、福田（以上名城大）、宮城（南山）、大窪（愛知教大）、工藤（岐阜大）

東海（女子）

中京女大、10季ぶりの優勝

◇4月24日～5月3日◇名城大球技場ほか◇参加3校（2回戦制リーグ）

中京女大は昨年度の新人戦で中京大を破っている自信を緒戦から発揮、みごとに全勝優勝を飾った。

中京女大の優勝は昭和41年春以来10シーズンぶり2回目のことだが、前回は、中京大戦を引き分けて得失点差で首位となったもので「完全優勝」は今回が初めてのことである。

中京女 14（10－5、4－6）11 中京
中京 15（5－1、10－3）4 愛知教大
中京 18（10－1、8－2）3 愛知教大
中京女 14（6－1、8－0）1 愛知教大
中京 10（3－1、7－1）2 愛知教大
中京女 6（4－2、2－2）4 中京

【中京】	得		得	【中京女】
横井	0	GK	0	宮永
		GK	0	中島
宮田	1	FP	3	大崎
田島	0	FP	1	小崎
野口	2	FP	0	大城
藤井	1	FP	1	安井
佐竹	0	FP	0	川北
松本	0	FP	0	酒井
下津	0	FP	1	松本
和多	0	FP	0	浜崎
林	0	FP	0	坂番
村勢	0	FP		
	4	（1）7MT（0）	6	

（審・飼沼・富田）

【順位】①中京女勝点2（4戦全勝）②中京1（2勝2敗）③愛知教大0（4敗）

大阪経大、宿願の初優勝

関西（男子）

◇4月24日～5月16日◇大阪中央体育館ほか◇参加1部6校、2部8校、3部8校、4部8校

ついに新しい時代が来た

昨秋まったく惜しいところで優勝を逸した大阪経済大は第1日から慎重な試合ぶりで白星を重ねヤマ場とみられた大阪体大戦（第2日）も前半のリードを守り切り、第4日には3連覇を狙う同志社を降し、最終日には名門関学から大量点を奪って快勝、23年秋加盟以来宿願の初優勝を全勝で飾った。関学（過去25回優勝）、同志社（15回）、関大（5回）以外の大学がタイトルを握ったのは40年春の京大につづいて史上二度目のこと。2位には昨秋と同よう大阪体大が入り、一方、関大が最下位に転落するなど（関大の最下位は24年秋以来のこと）〃新旧交替〃の時期到来を印象づけた。なお、二部は京都産大、三部は竜谷大、四部は大阪市立大が優勝した。

▽1部

大阪経大 25（16－4，9－8）12 関大
大阪体大 22（8－7，14－7）14 関学
同志社 18（8－5，10－2）7 甲南
関学 17（12－7，5－3）10 甲南
大阪経大 10（4－4，6－4）8 大阪体大
同志社 18（9－6，9－8）14 関大
同志社 9（引き分け）9 関学
大阪経大 17（8－3，9－4）7 甲南
大阪体大 19（9－8，10－9）17 関大
関学 19（8－7，11－4）11 関大
大阪経大 15（4－4，11－3）7 同志社
大阪体大 20（12－2，8－7）9 甲南
甲南 11（7－6，4－4）10 関大
大阪経大 23（13－7，10－3）11 関学
大阪体大 22（10－9，12－5）14 同志社

【順位】①大阪経大5戦全勝②大阪体大4勝1敗③同志社大・関学2勝2敗1分⑤甲南大1勝4敗⑥関西大5敗

大阪経済大全成績（本誌調べ）

	春季	秋季
昭23	……	加盟（2部）
24	2部優勝昇格	③2勝2敗1分
25	③1勝1敗2分	⑤1勝4敗
26	⑥5敗，2部転落	2部
27	2部	2部
28	2部	2部
29	2部	2部
30	2部優勝	2部
31	2部	2部優勝，昇格
32	④2勝3敗	⑥1勝4敗
33	③3勝2敗	⑥5敗，2部転落
34	2部	2部
35	2部	2部
36	2部	2部
37	2部	2部優勝
38	2部	2部優勝，昇格
39	⑦1勝6敗	⑤2勝5敗
40	⑦1勝6敗	⑥2勝5敗
41	⑥2勝5敗	⑥2勝5敗
42	③3勝2敗	⑤1勝3敗1分
43	⑤2勝3敗	④2勝3敗
44	③3勝2敗	④2勝3敗
45	②4勝1敗	③4勝1敗
46	①5戦全勝	

1部通算126戦46勝76敗4分

関西（女子）

得失点差で大阪体大が初
甲子園の3連勝成らず

◇4月23日～5月16日◇大阪体大体育館ほか◇参加6校。

優勝を争った大阪体大と甲子園はまったくの力両互角、両者の対戦（最終日）も前半こそ甲子園が押していたが、後半大阪体大もよく盛りかえし8－8の同点で引き分けた

この結果、得失点差で大阪体大がわずかに優り初優勝、甲子園の3連勝を阻んだ。両校と他校との差はいぜん縮らず大量点差のゲームが多く内容的にはあと一歩の感が強い。

大阪教大 8（4－3，4－4）7 武庫川女大
大阪体大 25（15－1，10－3）4 夙川女短大
甲子園 23（13－0，10－0）0 大阪薬科大
甲子園 23（12－1，11－0）1 武庫川女大
大阪体大 17（9－3，8－1）4 大阪教大
夙川女短大 15（7－7，8－4）11 大阪薬科大
甲子園 10－4 夙川女短大
大阪体大 24－0 武庫川女大
大阪教大 7－3 大阪薬科大
甲子園 17（8－0，9－0）0 大阪教大
大阪体大 21－1 大阪薬科大
夙川女短大 17－6 武庫川女大
武庫川女大 15（6－1，9－2）3 大阪薬科大
夙川女短大 17（10－3，7－7）10 大阪教大
大阪体大 8（6－5，2－3）8 甲子園

【順位】①大阪体大4勝1分（得失点差83）②甲子園大4勝1分(68)③夙川女短大3勝2敗④大阪教大2勝3敗⑤武庫川女大1勝4敗⑥大阪薬科大5敗

熊本商科大が優勝飾る

初の南九州学生選手権は4月11日から3日間宮崎大体育館に4県6大学が参加してリーグ戦で行われ熊本商大がバランスのとれた攻守で初の選手権校となった。

熊本商大 25－7 大分大
熊本大 16－9 鹿児島大
熊本工大 20－14 宮崎大
熊本工大 10－6 熊本大
宮崎大 33－17 鹿児島大
熊本工大 29－4 大分大
熊本商大 15－10 鹿児島大
宮崎大 28－9 大分大
熊本商大 16－7 熊本大
熊本工大 17－12 鹿児島大
熊本大 15（分）15 宮崎大
熊本商大 15－10 熊本工大
熊本大 28－3 大分大
熊本商大 19－11 宮崎大
鹿児島大 23－6 大分大

【順位】①熊本商科大5戦全勝②熊本工業大4勝1敗③宮崎大・熊本大2勝2敗1分⑤鹿児島大1勝4敗⑥大分大5敗

福岡リーグは西南学院大

▼第4回福岡県学生春季リーグ（5月・東海大体育館）

福岡工大 23－19 東海
西南学院 18－12 久留米工短大
福岡大 16－5 福岡工大
九州大 12－10 九州産業大
西南学院 15－2 東海
九州産大 13－7 福岡大
西南学院 16－9 久留米工短大
九州大 18－13 東海
九州産大 12－10 福岡教大
九州産大 22－7 福岡工大
西南学院 22－7 九州大
福岡教大 22－6 久留米工短大
福岡大 10－5 東海
福岡大 21－6 久留米工短大
九州大 14（分）14 福岡工大
福岡大 12－9 九州産大
福岡教大 11－10 西南学院
福岡教大 23－11 九州大
九州産大 20－10 東海
福岡工大 14（分）14 久留米工短大
久留米工短大 16－14 東海
西南学院 22－10 九州産大
西南学院 23－5 福岡工大
福岡大 12－11 福岡教大
福岡教大 33－6 東海
福岡教大 18－11 福岡工大
福岡大 22－13 九州大
九州大 11－8 久留米工短大

【順位】①西南学院6勝1敗②福岡大6勝1敗③福岡教大④九州産大⑤九州大⑥福岡工大⑦久留米工短大⑧東海

各地の2部以下及び北信越、中四国、九州各リーグ戦の詳報は次号に特集いたします。

★☆★☆★☆★☆★ 海外トピックス

——杉山　茂——

東ドイツ抜群の強さ

女子6強のリーグ戦で

今冬の世界女子で上位進出を有望視される強豪6ケ国のリーグ戦が3月2日から5日間東ドイツで行われ、前評判どおり東ドイツが5戦全勝で優勝、チャンピオン国ハンガリーは1勝1分3敗に終った。

ソビエト	13—12	チェコ
東ドイツ	18—9	ハンガリー
ルーマニア	12—9	ユーゴ
ハンガリー	10(分)10	ルーマニア
ソビエト	18—14	ユーゴ
東ドイツ	13—5	チェコ
ソビエト	18—7	ルーマニア
ハンガリー	12—8	チェコ
東ドイツ	13—5	ユーゴ
ユーゴ	12—10	ハンガリー
ルーマニア	12—8	チェコ
東ドイツ	15—7	ソビエト
ユーゴ	13—9	チェコ
ソビエト	13—11	ハンガリー
東ドイツ	9—8	ルーマニア

【順位】①東ドイツ5戦全勝②ソビエト4勝1敗③ルーマニア2勝2敗1分④2勝3敗⑤ハンガリー1勝3敗1分⑥チェコ5敗

プレ大会はハンガリー勝つ

オランダ協会は世界女子選手権を控え3月19日から3日間ゾールで"プレ大会"を4ケ国によって行った。注目のハンガリー×ルーマニア戦は10—8でハンガリが勝ち同国が優勝した。

ハンガリー	13—7	デンマーク
デンマーク	11—7	オランダ
デンマーク	11—9	ルーマニア
ハンガリー	9—7	オランダ
ハンガリー	10—8	ルーマニア
オランダ	19—17	デンマーク

【順位】①ハンガリー②ルーマニア③デンマーク④オランダ

オランダ女子の成績

「世界女子選手権でベストフォアに」と開催国のオランダはプレ大会（前掲）をはじめ積極的な国際交流を行っているが3分5敗（3月末現在）とふるわない。

ユーゴ	15—9	オランダ
ユーゴ	17—7	オランダ
オランダ	12(分)12	オーストリア
オーストリア	11—10	オランダ
オランダ	11(分)11	チェコ
オランダ	7(分)7	チェコ
ノルウェー	6—5	オランダ
ノルウェー	5—2	オランダ

積極的なチュニジア

オリンピック・アフリカ代表をめざすチュニジアの積極的な強化策はなかなかさかんなものがあり4月末からナショナルチームがヨーロッパ遠征を行い、次のような成績をあげた。

チュニジア	22—14	ベルギー
チュニジア	24—16	ベルギー
チュニジア	21(分)21	マルセイユUC（仏）

マグレブカップでも優勝

第2回マグレブカップはアルジェリアで3ケ国のリーグ戦によって行われチュニジアが快勝した。大会は定員三千の会場が三日間とも満員になる盛況で、この地域のハンドボール熱急上昇をはっきり示した。

アルジェリア	17—12	モロッコ
チュニジア	11—9	モロッコ
チュニジア	12(6—6, 6—3)9	アルジェリア

イタリアも動き出す

堅実な発展をとげているといわれるイタリアはこのほど4試合の国際交流を行い、さらに4月上旬ローマで国際トーナメントを主催した（詳報未着）。また、同国では2月他界した前IHF会長H・バウマン氏を記念した"バウマン・カップジュニアトーナメント"を計画しているという。

イタリア	19—8	イギリス
イタリア	19—8	イギリス
ベルギー	30—13	イタリア
ルクセンブルグ	31—22	イタリア

ステラ、男女優勝成らず

第19回フランス選手権は、昨秋9月から行われていた1部リーグA・B各グループ（計16チーム）の上位2者による決勝トーナメントの結果、US・イブリイ—ステラ・スポーツの人気クラブ同士が4月24日パリで決勝を争い、イブリイがR・リカルド、ブルネらナショナルプレイヤーの活躍で22—17と快勝、2連勝5度目の優勝を決めた。

また、女子選手権決勝はステラ—パリ・UCの対戦で行われステラが8—6で勝ち優勝を飾った

スウェーデンはヘルラス

スウェーデン・リーグ（全国選手権）は有力10チームの2回総当りで行われていたが、このほど全日程を終了、ヘルラス・ストックフォルムが13勝4敗1分の好成績で2連勝した。2位はザーブ・リンコビング、3位フリヨルンダ・ヨテボリ、4位レッドバーグスリッド・ヨテボリの順。



欧州ハンドボール事情（上）

杉山　茂
（NHK運動部）

ちょうどハンドボールシーズンの佳境ともいえる時期に訪欧の機会を得た。他に目的のある旅、〝本場の事情〟と銘打って寄稿するにはあまりにも底の浅い見聞であったが、ともかくまとめてみた。【カット写真は今年の女子ヨーロッパカップ準決勝から】

○…………○

今冬のヨーロッパハンドボール界は表面はおだやかなシーズンに見えたが、裏側に秘む熱気はいつにないほど激しいもののようだった。

オリンピックへつながる世界選手権も済んだばかり、ビッグエベントといえば4月チエコでの第4回世界学生（ソビエト優勝、本誌既報）程度、ヨーロッパカップがファンの関心を煽るだけで、さしたる興奮を得ぬシーズンに終始したのだが、来シーズンのことを考えるとこれは正に嵐の前の静けさ。12月の第4回世界女子（オランダ）、3月のオリンピックヨーロッパ予選（スペイン）そして来夏8月には待ちに待ったオリンピックがミュンヘンで華やかに幕をあける。関係者やファンの関心が今年を通りこして来年に向けられてしまうのもムリない話だ。

まず、女子の情勢からお伝えしよう。

ハンドボールが、一説に女子の球技として興ったと伝えられながら、近年ヨーロッパにおけるその位置は必しも高くない、ということを耳にされている読者も多いだろう。

ミュンヘン・オリンピックのハンドボールが男女実施かどうか騒がれた時、国際ハンドボール連盟（IHF）筋があまり女子には乗り気でなかったという話や、オリンピック開催国である西ドイツのハンドボール関係者さえ「女子は美容と健康が目的で、オリンピックなどという場で壮絶な争いをさせるものじゃないよ」と言っていたそうだ。

女子は〝健康・美容〟が目的

たしかに西欧諸国では女子のハンドボールを競技スポーツとして強くとらえていないようである。

これはハンドボールだけに限った傾向ではないし、女子スポーツ（特に成年の）について述べる機会は改めてであるとして、ともかく西ドイツ4万、デンマーク1万5千、スウェーデン1万1千、オランダ1万、フランス9千といわれる女子人口の大部分は、生活の中のスポーツとしてハンドボールに親しんでいる感じが濃い。勝負を競う〝選手〟はごく一部、したがって一般の関心もさして高いとはいえない。

ちなみに、今年のフランス選手権の女子決勝の観客数は410、同男子決勝は二千七百（満員）であった。

このほか世界選手権の開催地が男子に比べてなかなか見つからない現状や報道関係の女子の扱いの小ささも一つの裏付けといえなくはない。今冬の世界選手権にエントリーした国が日本を含めて14ケ国。IHFが〆切り前から「本大会は9ケ国で」と消極的な数字を示したのはもっともけん著な例といえるだろう。

こうした実情を背景にしながらもトッププレイヤーに対する各国の熱のいれかたは、男子とまったく同じだといってよい。

特に、世界選手権に出場を申しこんだ国々はそれぞれ自信あってのことであり、予選を経て本大会にしぼられる9ケ国の実力は、男子の決勝トーナメントに優るとも劣らぬ激烈な戦いを予想するに充分である。

圧倒的な力示す東欧諸国

西欧側に比べ東欧側の意欲はさらに高い。過去3回の優勝国は
第1回（昭32）チェコスロバキア
第2回（昭37）ルーマニア
第3回（昭40）ハンガリー
といずれも東側、さらに現在は廃会となっている世界女子11人制は2回（昭31、昭35）ともルーマニアの優勝に終っている。また女子ヨーロッパカップの優勝チームを国別にみるとソビエト5回ルーマニア2回、チエコ、東ドイツ、デンマーク各1回となり、西側ではデンマークのHG・コペンハーゲンが第5回に一矢を報いているにすぎない。つまりは、女子の天下は完全に東欧諸国の独占といってよいのである。

衆目の見るところ6年ぶりに開かれる今冬の第4回世界女子7人制選手権も東側の強豪によって覇権争いが演じられるであろう。（しかし、IHFが本大会出場を9ケ国におさえたがために、ヨーロッパ予選において早くも東ドイツ－チェコ、ソビエト－ルーマニアが星をつぶしあう結果となり、充分に世界最強の座を狙い得る二国が姿を消すことになったのは、いかに規定の冷めたさとはいえ惜しまれてならない）

優勝めざす東ドイツ

筆者の知る範囲で今シーズンヨーロッパで行われた女子のビッグトーナメントは10月のカルパティア・カップと1月のユーゴトーナメントであった。

カルパティアカップ（本誌84号参照）には東側の強豪7ケ国8チームが参加、東ドイツが全勝優勝（4試合で63得点、38失点）している。

東ドイツの主力はホクムスをエースにゼラッヘ、ブラウン、ヤンカー、メスター、ブルゥワー、プロッペ、ヘルウィッグ、GKゾベル、ロフェら名門ライプチッヒ、エムポールロストク、TSS、ベルリンなどの主軸プレイヤーで固めている。前回は予選で失格しているだけに今回は一気に優勝を狙っており、事実それだけの力は充分にあると思う。

この時2位になったのはルーマニアだが、最近の同国は本誌でも再三伝えられるようにティミソアラ大学が躍進し、往年の強豪ステインタ・ブカレストやラピッド・ブカレストらをおさえている。

ティミソアラ大学を中心とした若さはたしかに注目されるが、キャリアが微妙に作用する女子だけにもろさもある。

メンバー一新のハンガリー

女王ハンガリーはどうか。ハンガリーに限らず、一九六八年に予定されたモスクワ大会が流会となり一九六五年以来6年ぶりの世界選手権となれば、どの国も前大会の主戦メンバーはよほどのことがない限りナショナルプレイヤーのリストから消えているだろう。前回、最年少で話題になったポーランドのA・グルツカ(16才)嬢も今年はすでに22才になっているのだ。

ましてや平均年令25才、31才のM・アイオナ、30才のJ・ロムハニィ両ベテランの巧妙なリードを軸にして優勝したハンガリーの主力はおそらく一人も残っていまい。手元に昨年6月のザグレブトーナメントのメンバーがあるが総て入れ替っている。

中心は今年のヨーロッパカップで準優勝のフェレンクバロスブダペストのクシク、スザボ、フレック、ボクナルらと思われ、前回の覇者の面目にかけても最上位へ進出2連覇を狙いたいところだ。

ソビエト〝予選〟で失格

東ドイツとともに最有力候補にあげられていたソビエトは、一九六七年以来ヨーロッパカップに4連勝（シャルジリカ・カウナス、スパルタク・キエフ各2回）しており自信満々であったが滞独中の近森克彦氏からの情報によると予選でルーマニアに足元をすくわれたようだ。

前回は予選でオランダに大勝しながら政治的な理由で本大会直前棄権してしまったが、すでに一九六八年の大会開催を引きうけた時から、タイトル獲得には充分目算があってのことといわれていた。

1月末に発表された今シーズンのナショナルプレイヤー12人はヨーロッパカップ2連勝のスパルタク・キエフからセルスティュク、マルシューバ、ウラソーワが選抜され、その他ソコローワ、ボブローワ、バラノーワ（以上ラック・モスクワ）カミスニコーワシャバノーワ、チュービナ、オステインスカヤ（以上スパルタク・バク）、ポリヤコーワ（レニングラード）、ゴンチャローワ(シャルジリカ・カウナス）らであった。

また、前回オランダとの予選で活躍したバブルース、ジブイフらも健在であったし、昨夏のザグレブトーナメントの得点王ツルシーナという有力アタッカーも控えていた。

男子が思わぬ誤算から9位に終ったあと女子にかける同国の期待はいっそう高いといわれながらの失格は大きなショックだろう。

ダークホースのユーゴ

前回2位のユーゴは今冬もダークホースといえる。

伝統のザグレブカップのほか今シーズンは2回の国際大会を開き秋の大会では東ドイツにつぎ2位1月の大会ではチェコ、デンマーク、西ドイツをおさえて優勝した。ユーゴの強味は前回若手として活躍したクネゼビック（当時20才）、ニンコビク(同20才）イストバノビク(同22才)、トマセク（同19才）らが円熟した攻守でいぜんチームの中心になっていることだろう。特にトマセクは押しも押されもせぬエース、毎試合5点近くを叩き出している。

おなじみのH・トルカ氏（昭42来日）の率いる西ドイツは積極的な国際交流で少くとも3位(前回)の座は確保しようと強化につとめているが芳しい情報はあまりない。

最新のナショナルチームの顔ぶれをのぞくと、いぜんGKにモニカの愛称で知られるアイッヒナウアー、FPにミルター、レイトウエイスナーの名がみえる。モニカは28才、ミルターとレイトウエイスナーは30才。ミルターは42年に来日し、多彩なフォームから強シュートを投げ分け日本のファンにも強い印象を焼きつけた選手。

トルカ氏の苦悩は、有力な若手が輩出しないあたりにあるようだ。だいたいナンバー・ワンクラブ・FC・ニュウルンベルグというのが平均年令29才で〝クルブ・ムティス〟～ママさんクラブ～と別名があるほど。余談になるがこのクラブの主将バウアーは往年のナショナルプレイヤーで今年36才という大ベテラン。今なお第一線に立っている。第2回（昭37）にいちど8位にまで転落し、ようやく前回は3位まで盛り返したのだが、今冬はまた苦しい大会になるのではなかろうか。親日家の多い同国だけに、日本のファンとしても気になる話であろう。

評判高い日本の実力

ところで、ヨーロッパに於ける日本女子の評判は高い。どちらかといえば男まさりの豪快なプレーのみに追われてスピードに富んだ流れいな展開が乏しいヨーロッパに比べて日本チームの巧ちな攻守が注目されているわけだ。

ミュンヘン、ミュンヘンと男子の全日本へ多くの目が注れているあいだに全日本女子が大きな飛躍を遂げるのも夢ではない。

筆者が羨しく思うのはヨーロッパにはハンドボールを楽しむオールド・ガールがいかにも多いということである。

有力実業団の角遂をベースにトップレベルは引きあげられたが、一般クラブの減少という〝事態〟を招いている日本。

本場との差は、真の意味でまだ開きがあることを痛感せざるを得なかった。

―ナショナルチームの記録②―

～個人記録を整理する～

今回は個人記録をまとめてみた。公式国際試合というのは前回（本誌第84号20頁）でも触れたとおり一国の認定するナショナルチーム対ナショナルチームを指す。例えば今春4月7日の全日本対グンメルスバッハ（西独）戦は全日本選手にとって国際試合ではあってもオフィシャル・マッチとはレコードされない。

全日本の公式国際試合は前回既報のとおり男子7人制38試合、女子7人制15試合、男子11人制3試合である。

昭和38年1月スウェーデンで行われた第1回世界学生選手権代表は日本学生界の代表だが、ナショナルプレイヤーではなく、それらの試合は国際ハンドボール連盟（IHF）も公式国際試合として処理していない。本稿でも省いてある。

相手がナショナルB的な試合の場合はどうするか。42年9月に来日した西ドイツ選抜は男女ともナショナルプレイヤーで固めていたがナショナルチームとして西ドイツ協会は認めていず、「西ドイツ・ナショナル」と書いたプログラムを見ると同行の役員は不気嫌な顔をしていたものだ。この時の対全日本戦2試合も本稿では採りあげていない。同ようの理由で44年6月ブカレストで対戦したルーマニアBとの2試合も除いた。このほか36年3月プラハで顔を合せたチェコ選抜は明きらかにローカルチームであり対象外。

このように整理していくと前述の数字にまとまる。

本題に入ろう。公式個人記録は全日本監督・村田弘氏からも是非集めて欲しいといわれていたのだがおきまりの資料不足。「完全」かといわれると実は自信がない。

というのは公式試合のデータが完ぺきに保存されていないからである。

一例をあげよう。39年3月の第5回世界男子7人制第1戦・対ノルウェーの記録を本誌17号で調べてみると

【日本】	得
GK福本	0
FP竹野	9
東	1
宮原藤	0
田口	0
北村	5
住広	3
	18

とあり、スターティングメンバーだけで60分を戦ったことまでは判る。しかし、公式国際試合個人記録ではこの日ベンチに入ったFP3人（注・現在は4人）、GK1の交替要員も数えなければならないのである。

7年前の話であり誰の記憶もさだかではない。残念ながら前記7選手以外の名を知ることはできなかった。

最近はこういう不完全なモノは次第にカゲをひそめてきた。村田監督、竹野奉昭コーチ両氏の性格や、本誌・藤本強編集長の努力によるところが大きいと思う。選手にとっても幸せな話である。

二百万人の中から選ばれて…

ともかく並べてみたのが次頁の表だ。

男子はこれまでに7人制で52名のナショナルプレイヤーを生んでいる。過去35年、延べにして200万人以上のハンドボール愛好者の中から栄光の全日本選手となったのはほんの一にぎりの人々である。

文字どおりのエリート、幸運のプレイヤーといえよう。兄弟で選ばれた近藤金博、信行はなかでもすばらしい。

女子は24名。43年モスクワで予定された第4回世界女子7人制が流会となったこともあって男子の半数にも満たない。

11人制（男子）の33名は、オールドファンにとってなつかしい顔が並んでいる。7人制と重複している14選手は36年第4回世界7人制に出場の帰途、イスラエルで11人制を戦ったため。11人制は日本球界ではすでに過去のもの。このリストへ新たに加る人はいない。貴重な〝球史〟といえる。

抜群、木野の得点記録

リストの中から男子の出場試合数ベスト5を拾い出してみると、①竹野28②木野・近森25④飯田・近藤信23……。

竹野は第一線に在ること15年、そのキャリアにおいては世界でも有数の名選手。昨年限りでユニホームを脱ぎ、全日本コーチとして後進の指導に当たっていることは御承知のとおりだ。

木野以下の4選手はほとんど国際舞台へのデビューが同時、41年頃からだ。

わずか5年足らずで竹野の試合数にせまっているのは、日本ハンドボール界の国際進出を物語ってもいよう。

GK福本の17試合は竹野に優るとも劣らぬレコードといえ、彼の節制がうかがわれる。

参考までに公式試合での得点数を右欄へ記したが、このベスト5は

（24頁へつづく）

11人制公式国際試合出場選手名簿（ABC順）

		試合数
天野　　浩	（東京教大OB）	1
浅野　克彦	（桜丘会）	2
尾藤　嘉郎	（芝浦工大）	1
遠藤　健次	（全茨城）	1
深江幸次郎	（関学）	1
服部　和記	（芝浦工大）	1
平地　英正	（東京ク）	2
井上　祐人	（日体大）	1
小林　二郎	（全芝浦工大）	1
幸田　末之	（日体大）	1
近藤　金博	（芝浦工大）	1
皆川　茂夫	（函館サンダー）	2
宮原藤支男	（芝浦工大）	1
村上　喜英	（芝浦工大）	1
村田　　弘	（大阪ク）	1
中出　盛雄	（大阪ク）	1
新村　理文	（全東京教大）	1
佐野　和夫	（全東京教大）	1
佐藤　宏輔	（芝浦工大）	1
斎藤　　一	（日体大）	1
桜井　丈夫	（全芝浦工大）	2
高山　政悟	（日体大OB）	1
竹野　奉昭	（大崎電気）	1
田口　侑義	（大崎電気）	1
高村　武彦	（関西大）	1
柳沢　民弥	（日体大OB）	1
山田　幸男	（芝浦工大）	1
山本　孝男	（大阪ク）	2
GOAL KEEPERS		
福本　　弘	（芝浦工大）	1
星野　賢造	（東京ク）	1
今野　邦彦	（大崎電気）	1
光島　磯雄	（大阪ク）	1
小野　秀雄	（日体大OB）	2

（　）の所属は試合出場当時のもの

公式国際試合出場選手名簿（昭46.4.1現在，ABC順　太字は現オリンピック候補）

選手	所属	試合数	得点数	全日本選手としての海外遠征
【男子】有永　修二	（立教大一全立教）	6	6	昭44欧州遠征
青木　孝次	（芝浦工大一千代田印刷機製造）	1	0	
青木　義男	（日体大一大阪イーグルス）	10	13	昭40中国，昭42第6回世界
尾藤　嘉郎	（芝浦工大＝当時）	1	0	昭36第4回世界
近森　克彦	（芝浦工大一大崎電気）	25	73	昭42第6回世界，昭44欧州遠征，昭45第7回世界
江名　英彦	（立教大一三景）	16	15	昭42第6回世界，昭45第7回世界
藤中　憲二	（日体大一大同製鋼）	13	8	昭44欧州遠征，昭45第7回世界
深江幸次郎	（関学＝当時）	2	3	昭36第4回世界
服部　和記	（芝浦工大一桜丘会）	2	2	昭36第4回世界
早川　清孝	（日体大一ワクナガ薬品）	13	5	昭44欧州遠征，昭45第7回世界
東　一敏	（立教大一大崎電気）	16	21	昭44欧州遠征，昭45第7回世界
東　嘉伸	（日体大一大阪イーグルス）	11	13	昭39第5回世界，昭40中国
平岡　秀雄	（東京教大一東京教員ク）	7	7	昭44欧州遠征
飯端　寿昭	（関学一三国丘ク）	7	46	昭42第6回世界
飯田　誠行	（同志社大一大崎電気）	23	44	昭42第6回世界　昭44欧州遠征　昭45第7回世界
市原　則之	（大崎電気一ワクナガ薬品）	3	2	昭40中国
井上　祐人	（日体大一大阪イーグルス）	1	1	昭36第4回世界
井上　素行	（大崎電気）	12	21	昭39第5回世界，昭40中国，昭44欧州遠征
金田　純男	（大崎電気一中京ク）	9	2	昭39第5回世界　昭40中国
木野　実	（立教大一ワクナガ薬品）	25	110	昭42第6回世界，昭44欧州遠征，昭45第7回世界
北井　晴次	（東京教大一埼玉教員ク）	9	20	昭42第6回世界，昭44欧州遠征
北村　文雄	（立教大一日本発条）	4	2	昭42第6回世界
北村　尚英	（芝浦工大一大崎電気一全岩手）	11	28	昭39第5回世界　昭40中国
近藤　金博	（芝浦工大・東京重機監督）	1	0	昭36第4回世界
近藤　信行	（芝浦工大一大崎電気）	23	39	昭42第6回世界，昭44欧州遠征，昭45第7回世界
宮原　宏	（大崎電気一塩山ク）	4	0	昭39第5回世界
宮原藤支男	（芝浦工大一大崎電気）	12	3	昭36第4回世界，昭39第5回世界，昭40中共
餅原　正修	（大崎電気一日本碍子）	4	2	昭39第5回世界
森田　謙喜	（芝浦工大OB）	2	0	昭40中国
村上　喜英	（芝浦工大一全神奈川）	2	0	昭36第4回世界
中井　武三	（同志社大一大同製鋼）	7	4	昭44欧州遠征，昭45第7回世界
新　繁樹	（芝浦工大一大洋紡監督）	7	11	昭39第5回世界
西村　功	（法政大一大崎電気）	1	0	昭40中国
野田　清	（立教大一大同製鋼）	18	38	昭44欧州遠征，昭45第7回世界
大西　武三	（東教大一東京教員ク）	3	0	昭42第6回世界
佐藤　宏輔	（芝浦工大＝当時）	2	3	昭36第4回世界
斎藤　光男	（日体大一群馬教員ク）	7	13	昭45第7回世界
住広　尚三	（芝浦工大＝当時）	8	24	昭39第5回世界
関根　邦夫	（芝浦工大＝当時）	2	1	昭42第6回世界
竹野　奉昭	（日体大一大崎電気）	28	85	第4，5，7回世界，昭40中国，昭44欧州遠征
田口　侑義	（芝浦工大一大崎電気・東北宗形監督）	11	8	昭36第4回世界，昭39第5回世界，昭40中国
高村　武彦	（関西大一桜丘会）	1	0	昭36第4回世界
山田　幸男	（芝浦工大一桜丘会）	2	1	昭36第4回世界
山田　透	（芝浦工大一常盤工業一トヨタ車体）	4	0	昭42第6回世界
吉金　勇	（芝浦工大一常盤工業）	1	0	昭42第6回世界
GOAL KEEPERS				
福本　弘	（芝浦工大一大崎電気・同女子監督）	17	0	第4回，第5回世界，昭40中国，昭44欧州遠征
本田　洋	（日体大一大阪イーグルス）	15	0	昭44欧州遠征，昭45第7回世界
今野　邦彦	（芝浦工大一大崎電気）	3	0	昭36第4回世界
尾形　譲	（立教大一三景）	13	0	昭39第5回世界，昭42第6回世界
島崎　政治	（日体大一大阪イーグルス）	1	0	昭40中国
下里　敏彦	（大崎電気）	17	0	昭44欧州遠征，昭45第7回世界
竹下　洋一	（中央大＝当時）	7	0	昭42第6回世界
【女子】青木　悠子	（愛知紡）	7	0	昭37第2回世界
深津久仁子	（大崎電気）	1	0	昭37第2回世界
早川　清美	（大崎電気）	8	17	昭40第3回世界
磯部　昌子	（愛知紡）	7	11	昭37第2回世界
笠原喜代子	（大崎電気）	8	7	昭40第3回世界
加藤　井子	（大崎電気）	8	0	昭40第3回世界
黒川　泰恵	（大崎電気）	15	8	昭37第2回世界，昭40第3回世界
久蓮松美和子	（大洋デパート）	8	2	昭40第3回世界
永井　昭子	（大崎電気）	8	5	昭40第3回世界
新保いく子	（大洋デパート）	8	2	昭40第3回世界
西村八千代	（大洋デパート）	6	13	昭37第2回世界
太田美紀子	（レナウン工業）	6	1	昭37第2回世界
沢田　勝子	（愛知紡）	7	8	昭37第2回世界
鈴木　功子	（大崎電気）	8	14	昭40第3回世界
竹本千恵子	（レナウン工業）	2	0	昭37第2回世界
高山やよい	（大洋デパート）	2	0	昭40第3回世界
塚原　米子	（愛知紡）	3	0	昭37第2回世界
田村うた子	（大崎電気）	6	4	昭37第2回世界
宇井　敬子	（大崎電気）	15	21	昭37第2回世界，昭40第3回世界
山崎　鉎子	（愛知紡）	7	1	昭37第2回世界
GOAL KEEPERS				
古谷　芳枝	（大崎電気）	11	0	昭37第2回世界，昭40第3回世界
川崎　幸子	（大崎電気）	8	0	昭40第3回世界
篠崎　益野	（愛知紡）	6	0	昭37第2回世界
山田　帆浪	（レナウン工業）	6	0	昭37第2回世界

①木野110②竹野85③近森73④飯端46⑤飯田44……。

木野のポイントが抜群だ。オリンピックを目指す全日本の主軸として彼が今後どこまでこの記録を伸ばすか注目されよう。ちなみに今春2月末現在、世界の二大エースといわれるグルイア（ルーマニア）は482点（＝92試合）シュミット（西ドイツ・4月来日）は231点（＝45試合）。

なお、木野は41年10月3日の中共戦でナショナルプイヤーとして初登場したが、それ以来25試合連続得点という大記録をつづけている。

木野を追う記録は近森の24試合連続（継続中）。

1試合の最高得点記録は12点で北村尚が39年3月23日のイスラエル戦、飯端が42年1月8日のフィンランド戦と同1月12日のハンガリー戦でそれぞれマークしている。

〝世界〟2度出場は3人女子

女子では往年のエース宇井の記録が光る。惜しまれるのは早川で第4回大会が流れていなければ宇井を抜いただろう。

宇井敬子選手

竹野孝昭選手（現役当時）

木野　実選手

リストアップされた24名は現在はいずれも第一線を退いたカタチで自分の記録を更新することは難しい。

今冬のオランダ大会へ臨む新進によって、一日も早く先輩たちの数字を書き替えて欲しいものである。

寿命の短いといわれる日本の女子選手だけに2回の世界選手権を経験しているのは黒川、宇井、古谷の3人だけだが〝第一線年令〟の延長は研究されてよいテーマであろう。

80試合以上出場がずらり

日本協会の記録不備については機会あるごとに苦言を呈しているが、アマチュア選手にとっては唯一といってよい〝財産〟であり、充実が望まれる。

ちなみに、昨春の第7回世界男子7人制選手権の出場全選手の中から公式国際試合数のベストテンを選び出したら別表のようになった。

このようなデータが作れるのも各国協会が大会事務局の要望に応えて正確な数字を提出したからである。（未提出は日本とアメリカのみ）

拙稿をたたき台にして、公式国際試合記録（チーム・個人）が完備されるのを強く望みたい。

第7回世界男子7人制出場選手公式国際試合数10傑
〜45年2月1日現在〜

	①マレス	（チェコ）	108
	②ルブキング	（西ドイツ）	106
	③アドリヤン	（ハンガリー）	95
	④フエンヨ	（ハンガリー）	93
	⑤ハブリク	（チェコ）	90
	⑥マロシ	（ハンガリー）	89
	⑥コバク	（ハンガリー）	89
	⑧カールソン	（スウェーデン）	87
	⑨エチエベリ	（フランス）	84
	⑩オテレア	（ルーマニア）	83
	⑩アンデルセン	（デンマーク）	83
GK	①モルテンセン	（デンマーク）	101
	②フェリナク	（フランス）	99
	③アーノスト	（チェコ）	78

悲運の男女16選手

ところで、日本球界の歴史の中で、ナショナルプレイヤーに選ばれ、その栄光にむせびながら公式国際試合を1回も経験していない〝悲運の選手〟が男子15名女子14名いる。男子は34年の第5回世界男子11人制代表に選ばれながら遠征が取りやめになったもの、女子は流会となった第4回世界女子7人制代表の各選手だ。

このうち、男子の7選手はその後再びナショナルプレイヤーに選ばれた公式試合の場を踏んでいるが他の8選手は機会を逸した。また女子では4選手が第3回大会に、2選手が今冬の大会に選ばれており、名簿の上だけで終ってしまった選手は8名ということになる。活躍の場を不可抗力で失った悲運の男女16選手を本稿では特にナショナルプレイヤーとして追記しておきたい。（ ）内の所属は当時。

【男子】 井薫（中央大）、高森孝一（芝工大OB）、浅野崇（明治大）、村中明朗（関学）、堀勤（桜丘会）、斎藤一（桜丘会）、浅野克彦（桜丘会）、北川勇喜（GK、全日体大）〜以上第5回世界男子11人制代表のうち〜

【女子】 種村好子、小林五子、水谷秀子、渡辺好子、清水一子、長谷川邦子（いずれも田村紡）、蓮見二三恵（三菱鉛筆）、渡辺美智子（GK、田村紡）〜以上第4回世界女子7人制代表のうち〜

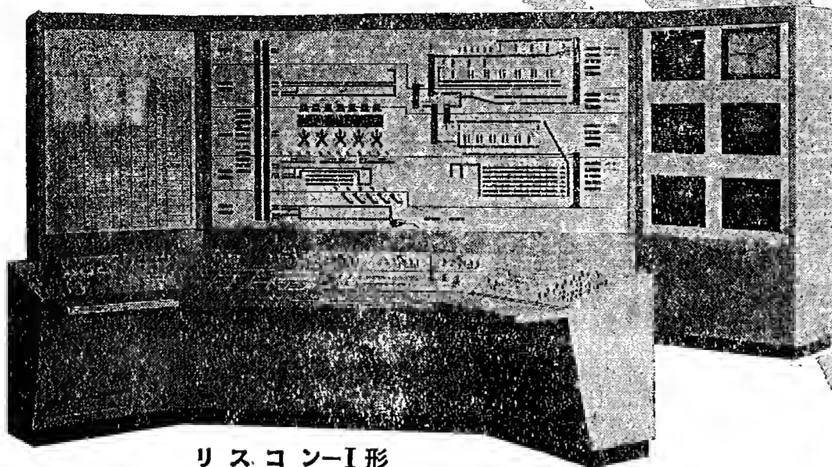
なお、球史上「全日本」が初めて編成されたのは、昭和18年12月東京で行われた枢軸国交歓球技大会で在日ドイツ人選抜と対戦した時であった。（完）

2回にわたって掲載した「ナショナルチームの記録」は筆者の個人資料を基に作成、独断や訂正すべき個所もあると思います。御意見をお聞かせ下さい。（杉山　茂）

Osaki

営業品目

- 普通電力量計
- 精密電力量計
- 誘導形自動電圧調整器
- 静止形自動電圧調整器
- 配電線事故捜査器
- 需要電力量遠隔測定装置
- 電力需給用計器用変成器
- 電流制限器
- 配線用しゃ断器
- 配電盤・分電盤・制御器
- 試験用変圧器
- 各種開閉器・しゃ断器
- 数字式テレメーター・データロガー
- 標準用計器用変成器



リスコン—I形



大崎電氣工業株式會社

本社及び 五反田工場　141 東京都品川区東五反田2の2の7　電話 (03)443−7171(大代表)
電信略号 シナガワ」デンキ

蒲田工場　144 東京都大田区多摩川2の8の1　電話 (03)759−6511(代表)

埼玉工場　354 埼玉県入間郡三芳町藤久保58　電話 (0492) 58−1205(代表)

グンメルスバッハの残したもの



VfL（フォアエフェル）グンメルスバッハ来日観戦総括報告

光島　磯雄

静岡と東京での試合は機会を得なかったが他の四試合を中心にして総括的報告と題することをおゆるしねがいたい。

四月六日二十時三五分定刻より四〇分おくれて、待ちに待ったVfLグンメルスバッハ（以下VfLと略記する）の屈強なるつら構えの面々が大阪空港国内線ロビーに姿をあらわした。小生の点呼に応じて名札を胸につけ野原大阪会長の紹介あった後バス乗車、大阪キャッスルホテルへ入る。延着のためホテル側は迷惑そうな表情。ただちに通訳宮崎まこと氏と高井桂子嬢と三人で明日の行事説明と予定伝達の打合せをする。相手は監督兼コーチのオイゲン・ハース氏と第二会長ヘルベルト・グロッデ氏。高井嬢の援助は宮崎氏にとっても選手係である私にとっても大きな力となりありがたかった。VfLの連中入浴や着がえなどで暇がかかり、ホテル側の催促にもかかわらず食事にかかったのが二二時過となる。

打合せをしているときに感じたのだが、VfLの選手と役員の間柄は、競技に直接関係あることとそれ以外の私生活の区別がはっきりしているらしく、我々日本人が考えるほどコーチや監督の威令は行届いていない様子。ハース氏にこのことを話したらうらやましいことだという。つかれたつかれたといいながらなおかつ夕食後十一時過ぎというのにVfLの連中は夜の「散歩」に出るという。少時間だけ梅田曽根崎付近を歩くのに付いてまわり十二時半頃あとは勝手にせよといってわかれる。

四月七日九時ホテルへ。起床している者二、三人のみ。中には朝の三、四時頃帰宿した者もあるらしい。そして又もつかれがとれないとぼやくからあきれる。日本なら監督の声一つでどうにでもなるはずだがなどと国情人情そして習慣の相違を考える。

十時大阪城見物。十五分で行ける所だが道草食う（子供や女性に話しかけたりカメラを使ったり）ことが多く、時間がかかって困る。出来るだけ相手の好きなようにさせるのが接待の要点であることはわかっているのだが。快晴と満開の桜がまたこれにプラスとなる。ハンス・ギュンター・シュミット大手前公園で女子銀行員がバレーボールをしているところへわりこみ、いろいろと身ぶりとドイツ語で遊技をおしえて愛嬌をふりまくほほえましき場面あり。彼はフォルクスシューレの教師であるため一九五センチ九五キロの巨体に以合わぬ滑けいさを感じさせる素顔であった。ハース氏など白髪と小肥りの身体が白いバレーボールと良いコントラストで本当に天真らんまんにはねまわり面白い男。一二時からの歓迎会に間に合わせるために心ならずも、せきたててホテルにもどったが、数名は松坂屋デパートに入ってしまったため、歓迎会の開始三十分以上おくれ、西独大阪総領事らが来ているためますます気がもめる。歓迎会は日独両チームと大阪協会、日本協会役員だけでごく簡単に終る。一六・三〇身仕度させて徒歩で大阪市立中央体育館へ。彼らつかれているからとて練習一度もせず。

× × ×

一八〇〇山田計、藤田八郎両氏の笛にて開始。立ち上りにゆっくりしたボールまわしが数回あったあと、左ポスト前十米付近からハンスゲルト・ベルターがまさに飛行機からぶっぱなすようなジャンプシュートを左上に叩きこんだのにはどぎもをぬかれる。この調子ではこれからどうなることやらと思ったが全日本は落着きを失わずボールまわしを続け野田、木野、斉藤らの長短シュートをあびせる。5分頃本田から出されたパスアウトがVfL陣内のノーマークのところに飛び、斉藤が走り自ゴールに身体を向けてキャッチしようとしたとき、VfLのGKカーターは防禦にとび出し斉藤と衝突しあお向けに転倒大きなうめき声をあげて苦しみ出しVfL全員ががく然となる。このときレフェリーはゲームを停止させなかったので全日本が無人のゴールに得点。このあとラルフ・ハーマンがゴールに入り続行されるも、シュミットに対する斉藤の執ようにして過度な防禦のため、そしてレフェリーがこれを制止しないためシュミ

ットや他の連中くさりはじめ攻防にくるいを見せる。野田、藤中、東、飯田らの加点で11―6で前半をおわる。シュミット憤然たる表情。後半挽回を期してVfL一気にスピードをかけて日本陣にせまりシュートを連発するもボールと人の動きがかみ合わず再三日本側のカットと本田のパスアウトにあい速攻を許し点差が開くばかり。45分以後は点差がちぢまらぬことと、レフェリーへの失望のためか試合をあきらめたような形となり、ついに22―11でタイムアウト。皆こんなはずではなかったのにという顔付き。試合後グロッデ氏との記者会見、宮崎氏通訳にてあり。

『全日本は先年スウェーデンで見たのに比して非常に良くなっている。特に野田がすぐれている。攻防に力強さが増している。VfLは出発直前まで重要な試合がありそれに30時間もの空の旅での疲労も加ってコンデイション不良であった。頭初の予定とちがうスケジュールになったことについてはおわびする。審判になれていないのも敗因の一つである』と。一九五〇帰宿。

クラウスカーターはゲーム途中から救急車で病院に運ばれ、各種検診の必要上入院となる。高井嬢随伴してくれる。

VfL二一〇〇夕食。二二三〇京都側役員に引きわたしバス発車。

× × ×

本日のゲームをみて感じるのは、攻めるとき相手の居る場所との距離との相関々係を考えて、じん速にかつタイミングをかえてシュートしないと長身者の作りだす壁に必ずといって良いほどハネかえされるのがオチであるが、斎藤、木野、飯田らのシュートは今回のVfLデフェンスの歯車のくるいに良く乗じて成功させたことが収穫といえよう。それに右側攻撃の潜航艇野田のアクロバットシュートも非常に効果的であった。VfLの速攻はすべてデフェンス陣内のカットボールからはじまり、ケラー、フェルトホフ、ミュラーらが速攻の先陣を走ることが多く、GKからのパスアウトによるものはみられなかったことは日本GK本田の優秀性ともいえるし、また欧州ではGKがダイレクトにボールをキャッチしただちに相手陣で味方につなぐという単純速攻のおこることがあまり多くないということなのか？　しかしながらおどろかされたのはシュミットのシュート力である。デフェンスの前から、横から、すきまからあたかもバズーカ砲のごとく無反動的なモーションで射出する快速球は、日本人には今までみられなかった特徴的なものであり、押しも押される世界の№1といわれるのも当然であることを確認した次第である。

四月八日　病院から電話あり、クラウスカーター元気になっているゆえ退院してチームと同行可能なりと。一五〇〇病院に行く。カーターはベッド上でせっせと手紙書き。斉藤との衝突の時の打撲のため眼のまわり青黒く充血。一六〇〇大阪協会理事長神田氏来り、のんびりの感多いカーターをせきたてて着換えと荷物整理をさせて自動車に乗せ、名神高速を走り京都西京極の体育館へ。控え室に入った直後、カーターは財布を毛布の下に置き忘れて来たのでどうにかしてくれないかといい出し苦笑。再三忘れものはないかとたづねたにもかかわらずである。

一八〇〇開会式。高井嬢進行係とアナウンス係を通訳する。今日はVfLはゲーム前の練習を行ない、日本流にいえばチエンジパスのようなことを非常に軽妙かつ正確にやる。一八三〇ゲーム開始。同志社大学応援団の太鼓やかけ声や拍手を珍らしがる。昨日とは打って変ってVfL最初から怒濤のごとき攻勢でシュミット、ベルターのロングシュートとケラー、Jブラント、ヴエステベらの三六〇度にわたる動きのすばやさに同志社デフェンスついて行けず、力につぐ力の押しかぶせで同大陣はブロックされるとはねとばされるほどあたりがはげしく、中井、飯田らのミドルシュートでわずかに応酬出来ただけ。ドイツ側役員も随行者も今日は良かっただろうと得意顔。昨夜の京都側の受入れの際宿舎の場所を確認していなかったらしく、VfLメンバーに夜中に10分ほど荷物を持って歩かせたことで大分ボヤいていた。

四月十日　名古屋へ行く。前座試合にハンドボール少年団のゲームあり。7才から10才ぐらいまでの子供達が嬉々としてボールにたわむれる光景を見て、近い将来愛知県は再びハンドボール王国を築きあげるであろうとたのもしく思う。

本日の場内通訳は在留ドイツ人で仲々たくみな日本語を使う青年。一五三〇、対大同製鋼のゲーム開始。VfL本日もスタートから怒濤の攻勢を展開しヴエステベ、フエルトホフ、リンゲルバッハらの速攻さえて10分で試合の大勢を決めてしまう。大同の藤中、中井、野田のトリオ良く頑張るも野田の右サイドからの倒れ込み以外はほとんど相手の長身デフェンスの壁である腕でカットされて通らず。野田のプレーにはVfLも絶賛を惜しみなく拍手にあらわす。ラルフハーマン好守す。7日には低目が弱いとみられたが本日は意識していたのか良く低目に足を出してボールを阻止する。ハース監督のゲーム中の指示には全員良く従っており、ハーマンがノーマークの際とび出してトスボールを野田に入れられたときなど、ベルターが血相をかえて怒声を発していたらハース監督鶴の一声的にこれを制止し、またベルターもハーマンに言過ぎをあやまっていた光景あり。VfLは日本型の攻撃になれて来たためか1・5の防禦態勢を布くようになり1の位置はリンゲルバッハとヴェステベが担当し良く動く。愛知県体育館をみて「こんな立派な体育館はドイツにもない、先日ヨーロッパカップの決勝戦が行われたドルトムントのスポーツハーレ（体育館）は一万四千人収容するがそれはただ単に観覧席が多いだけだ」と感心していた。

四月十三日　東京雅叙園ホテルでの日本協会レセプションに出席させてもらう。本日は宮崎氏が通訳す。レセプション開会前の荒川理事長と村田強化本部長がハース監督と対談要旨。

『ドイツナショナルチームは、通常一年に2回1週間か2週間の合宿をするだけであるが今年は来年が自国でのオリンピックであるだけに特別である。しかも最高方針である東西ドイツの統一チームでなければならぬゆえ詳細にわたっては答えられる立場ではない。



日体大戦から（筆者撮影）

日本チームはスウェーデンでの世界選手権大会当時にくらべて攻防に大きな進歩をとげたから必ずや韓国イスラエルを破ってミュンヘンに来ることが出来ると信ずとは外交辞令か。イスラエルは今年になってからヨーロッパ遠征をしてオリンピック予選にそなえてはいるが実力はドイツのレギオナルリガ（地方リーグ）程度のもので心配ないともいう。VfLは、明年日本がミュンヘンに来るようになったらミュンヘンの近くで是非とも2・3回の親善試合が出来るよう責任を持って斡旋したいと考えているとも言ってくれる。クラウスカーターについては、カーターは負傷のためもう日本ではプレーさせない。VfLとしては、ナショナルプレイヤーであり最高のGKの一人である彼を無事にドイツへ連れて帰るのが大きな責任であり、ナショナル選手はナショナルチームとでなければやり甲斐がないなどとじょう談をいう。審判に関しては依然として不満連発。親善だから我慢するがもしも選手権がかかっていたらただごとではすまないと強調』十六日の担当である佐野氏にもそのむね伝える。

本日はクラウスの弟であるヨーヘンブラントの誕生日で日本協会から花束を贈る。小生も絵はがきを進呈する。一九三〇レセプション終り、ほとんどの者があそびに出て行く中で、ハンジシュミットだけは少し性格がかわっている。推測するにシュミット本人はドイツナショナル選手の最高であることを意識しているか、又は東欧ルーマニア出身であるためか他の連中とはかけはなれた存在で外出もせず部屋にとどまる。切手を若干進呈する。

四月十六日　横浜にて対全日体大

開会式にはじめて両国国歌の演奏あり。「ドイツチュラントユーバーアレス」のメロディはふつうナショナルチームに対して行う儀礼であるが最終戦であるため大サービスといったところか。前座は日本ビクターと東京重機。双方とも善戦するので、ドイツ役員がこれが最強のチームかとたづねたため、いや九州に百貨店のチームがあってそれが主力となって12月にオランダへ行くことになっていると伝える。本日の場内通訳は佐野氏（佐野審判員の弟）と日体大の滝沢氏。

昨年度の№1である日体大の健闘が大いに期待されたのであるが、体格体力にめぐまれ日本チームの特徴をのみこんだVfLの前には猫の前のねずみ同然で思いどおりの試合をされてしまう。フェルトホフ、ケラー、ヴェステベ、リンゲルバッハらの比較的身体の大きくない（といっても一八〇センチ以上あるが）連中が、クラウスブラントの指示や動きがチームのかなめになっていることを完全に理解したプレーで縦横に走りまわり、身体のどこからでもはなすパスプレーを展開の日体大はブロックされると往々にしてはねとばされるほど攻防のあたりがはげしく、しかも二連装巨砲のシュミット、ベルターは両者それぞれの持味を充分に発揮する内容となる。すなわち酷な表現であるが日体大は二、三人をのぞいては皆VfLの連中の肩のあたりぐらいの体格であるため「制空権」は皆無で、ベルターのくせのないシュートはズバズバ決まり、シュミットはベルターにない特徴すなわち強いジャンプ力でタイミングをずらしたり打射点を上中下に使いわけたり左腕シュートをしたりして変化に富んでいるので日体大は防戦一方に追いまくられ、攻めては過度緊張のため・パスやシュートは壁のようなデフェンスにはねかえされ決定的プレーに欠け、得意であるはずの速攻も凡ミスで自滅し、わずかに後半20分頃速攻の球をつなぎ松原が二本決めたのが精一杯の力戦と認められる。

VfLは第四戦頃から怪我人続出し（カーター、Jブラント、リンゲルバッハ）、日本側がメンバー総出でたたかうのに彼らは11名でしかやれぬ状態であったが、個々の力量の差は脱帽に価することを率直に認めねばならない。コシュメール（左利き）が職務の都合ヴインケルマイヤーが学生選手権出場のため来日しなかったことは痛かったにちがいない。

本日の審判は安藤、佐野両氏。私のみた四試合のうちでは最も良かったと思う。「四歩」も日体大には気の毒なほどよくとったし、クラウスブラントを退場させたりしてゲームをまとめたがもう少し笛の鳴らしかたを工夫したらもっと良かったと思う。

四月十六日　VfL一行は横浜の外人墓地をたづね、戦時中日本に寄港し日本と交歓試合を行い、その後出港し事故で遭難したハンドボールの先輩であるドイツ潜水艦乗組員の墓まいりをしたとのこと。私高校時代に恩師藤田八郎氏から聞いた話であるが、当時日本協会は遭難したとの悲報に接し哀悼の意を表した後、乗組員チームにわたしに記念品と同じものを調製して母国の家族に贈ったという佳話があったことを思い出す。日本の軍国時代とドイツナチズムの最盛期の話ではあるが、我々にとってはハンドボールのみが両国の相互心情を流通交換することの出来る最高の手段であることを、この際あらたに日独百年以上にわたる友情をより一層固める意味からも銘記すべきであると考える。

×　×　×

VfLはたしかに今まで来日した外国チームの中では最強といえるほど過去現在の戦績は栄光につつまれているが、洩れ聞えるとこ

ろでは我々には推測し得ぬトラブルがあったため帰国後チームの存続にも影響があるとか。そしてこのチームもヨーロッパカップ優勝の御褒美であるためか「トロイメライゼ」日本的にいえば物見遊山気分で来ていることはたしかであり、全体的にみれば15年前の全ドイツナショナルチームに劣る点もみのがせない。出発直前に重要な試合をして来たというからには疲労もかさなり、それに加えてゲーム以外の生活では自由行動が多く認められているというムードの中で、到着直後夜あそびに出たり朝帰りをしたりしたという態度は明らかにVfLが全日本を軽く見ていたことにはほかならない。カーターの負傷も、彼自身病院で反省的に語っていたが「あんなことは珍らしいことではない、自分の判断と処置がまずかったためこんなことになってチームに迷惑をかけてしまった。斉藤に心配するなといってくれ」とのこと。たしかにFP・GKの衝突は日本でも良くおこることでありあの場合睡眠不足や疲労で反射神経の作用を鈍らせていたのかも知れない。7日のゲームではFPにもその症状がみられ、パスや動きの歯車がくるって日本側のカットやGKからのパスアウト速攻を誘発し大差となってあらわれたことは、結論的には彼我のコンディション調整の良否が明暗となったものと断言出来るのである。日本側もこれを他山の石として教訓を感じていただきたい。

又、審判方法が「ブンデスリーガ」や「ヨーロッパカップ」のそれと全くかけはなれているためはじめからおわりまで不満の連発で『不必要な笛が多過ぎる』『四歩が甘すぎる』『退場や7米投の基準があいまいである』等々の言葉が多かったこともあわせて記しておこう。いちいちもつともであると私は思う。このほか交替の仕方やスローオフ、フリースロー位置指定などレフェリーの素養に関することとか、又ハンドボールルールを良く知って通訳する者が欠けていることなども今後の問題として真剣に考慮研究すべき諸点を再び見出したように思う。この点などは昭和三十一年の時点と全く変りなく、進歩が認められないと断言せざるを得ぬ。

× × ×

しかしVfLは第二戦後は怒濤の攻防で欧州随一の力と技の片鱗を各試合にみせてくれた。片鱗という意味は休養の少ない状態での親善試合の連続と解釈してである。全日本との対戦が最後にでももう一回機会が作られていたら両者の真価を遺憾なく発揮する場面もみられたであろうにと思うと残念でもある。

ねがわくは全日本チームの各位には、九月来日するスウェーデンナショナルチームはVfL以上の力量をもつものと思って精魂を傾けて勝利をかちとるよう、不断の練習と努力研究を続けられたい。

静岡大会をみて

鈴木 誠

荒っぽさでは定評のあるグンメルスバッハに対して清商クラブが体当りにでた。執ようなマークとボディーチェックを多用した戦法はたしかに面白かったが、平均身長186㎝という大型FP陣のグンメルスバッハは、平均身長165㎝の清商クラブの体当り防御にてこずりながらも、わしずかみのボールから豪快なロングシュートを連発して得点を重ねた。清商クラブもセット攻撃から反撃を狙ったものの長いリーチの相手ディフェンスは容易に崩せず、散発的に得点を返したただけで前半を終った。



【写真は清商戦から】

それでも後半開始直後、佐藤のシャープなプレーで連続3ゴールを決めて観衆を沸きたたせ、守ってはGK大石の健斗と、渡辺、服部、浜田等の斗志と、鈴木、三ッ井の小粒選手の活躍で、最後まで名門らしい試合ぶりに観衆は満足した。

それにしても世界のエースといわれるシュミットのスケールの大きい攻撃力と、チャンスを的確にとらえる左右への配球は讃嘆すべきものがあり、フェルドホフのスピーディーなゴール前のプレーも印象的であった。

最後に、単独の一クラブである清商OB会が、三千人に近い観衆を集めて国際試合を開催して、ハンドボール競技の普及と国際親善に寄与するというその組織力と団結心に心から敬意を表する次第です。

関東協会の日程 ▽第17回関東高校選手権（6月19、20、21日、駒沢）▽第18回関東選手権〜兼国体関東予選会〜（8月27、28、29日、佐原）。第4回関東実業団選手権は未定。

近畿協会の日程 ▽第14回近畿高校選手権（7月22〜24日）▽第20回近畿中学総合体育大会ハンドボール競技（8月24、25日）▽国体近畿予選会（9月4、5日　兵庫県）▽第2回近畿実業団選手権（9月26、10月3、10、17日）▽第2回近畿クラブ大会（11月3、7、14日　京都）

中国協会の日程 ▽第22回中国高校選手権（本誌30頁参照）▽第16回中国選手権（7月10、11日、松江）▽第26回国体中国予選会（8月28、29日　境港）

国立競技場（東京）が着工

懸案の東京・国立北競技場がいよいよ着工、4月22日建設地の東京都北区稲付出井頭町で起工式が行われた。

広さ四万二千平方メートル、総工費約八億円でサッカー場1面、体育館（地上、地階各2階）ができるが、体育館にはハンドボールなどに使える球技室（58m×24m）も含まれている。本誌既報のとおり体育館にはスタンドはない。完成は来春6月の予定

〃〃〃〃〃〃

木下京都会長が受賞

日本協会評議員・京都府協会々長木下弥三郎氏（77才、丸王観光KK社長）は国際観光旅館連盟の推せんでこのたび勲5等瑞宝章を授与された。受賞伝達式は5月13日東京・気象庁で行われた。

岩国工、7年ぶりの優勝 男子
女子は山陽女が圧倒の連勝

第22回中国高校

第22回中国高校選手権は例年どおりブロック高校選手権のトップを切って5月9、10の2日間広島県呉市の広高球技場に中国5県の代表男女各16チームが参加して開かれた。

男子は4連勝をめざす下関中央工をはじめ山口勢が評判どおり強さを示し上位へ進出、18年ぶりの優勝を狙う天城（岡山）がその一角に食いこんだ。決勝は下関中央工の野望をつぶした岩国工（山口）と天城の顔合せとなり延長にもつれこむ激戦の末、岩国工が速攻で決勝点をあげ勝った。

岩国工の優勝は7年ぶり4回目山口代表の優勝は11年連続16回目

女子は山陽女（広島）が圧倒的な攻守を見せ4試合で57得点、文句なしの2連勝（7回目）を飾った。

▽男子1回戦
下関中央工（山口） 13―7 倉吉産業
浜田水産（島根） 13―7 操山（岡山）
岩国工（山口） 14―7 呉商（広島）
倉敷商（岡山） 14―11 広（広島）

下関工（山口） 20―11 津山商（岡山）
松江工（島根） 17―12 倉吉工（鳥取）
岩国（山口） 10―8 松江南（島根）
天城（岡山） 23―11 呉工（広島）

▽同準々決勝
下関中央工 12―7 倉敷商
岩国工 27―15 浜田水産
下関工 20―5 松江工
天城 13―12 岩国

▽同準決勝
岩国工 16（6―2、10―5）7 下関中央工
天城 11（4―4、7―2）6 下関工

▽同決勝
岩国工 17（6―6、8―8、2―1、1―1）16 天城

▽女子1回戦
山陽女（広島） 12―3 真備（岡山）
山口中央（山口） 16―11 戸手（広島）
津山商（岡山） 11―4 浜田商（島根）
徳山商（山口） 19―10 呉豊栄（広島）
宇部女商（山口） 6―5 広島一女商（広島）
松江市女（島根） 8―6 金川（岡山）
松江南（島根） 5―2 呉商（広島）
徳山（山口） 16―4 落合（岡山）

▽同準々決勝
山陽女 17―2 山口中央
徳山商 10―9 津山商
宇部女商 6―4 松江市女
徳山 14―2 松江南

▽同準決勝
山陽女 17（7―3、10―2）5 徳山商
徳山 13（7―2、6―1）3 宇部女商

▽同決勝
山陽女 11（5―2、6―1）3 徳山

各地の記録

熊本教員、3度目の栄冠
熊本トヨタに逆転勝ち

第7回九州選手権（男子のみ）は5月8、9日の両日鹿児島県隼人町の隼人工高球技場に7県の15代表（棄権1）が参加して開かれた。

教員勢がベストフォアのうち三つを占める活躍を示し、前年優勝の熊本トヨタとの対抗となったが結局決勝は熊本教員―熊本トヨタの組み合せとなり、熊本教員が後半逆転勝ち4年ぶり3度目の優勝をとげた。熊本代表の優勝は2年連続5度目。

▽1回戦
鹿児島教員 31（20―5、11―6）11 宮崎大
佐賀教員 不戦勝 昭和電工（大分）
福岡教員 19（6―7、13―7）14 長崎教員
熊本教員 36（18―2、18―13）15 宮崎教員
佐世保ク（長崎） 23（9―9、14―7）16 鹿屋第一航空群（鹿児島）
熊本大 12（7―4、5―5）9 鹿児島大
大分教員 34（11―7、23―11）18 福岡ク

▽準々決勝
鹿児島教員 19（7―7、12―6）13 福岡教員
熊本教員 18（8―10、10―3）13 佐世保ク
大分教員 24（11―11、13―8）19 熊本大
熊本トヨタ 棄権 佐賀教員

▽準決勝
熊本トヨタ 13（7―5、6―6）11 鹿児島教員
熊本教員 27（12―5、15―10）15 大分教員

▽同決勝
熊本教員 13（5―6、8―5）11 熊本トヨタ

「各地の記録」欄への寄稿を歓迎します。〆切日は特に設けません。用紙自由。ただし紙面の都合で原文を短かくする場合があります。

鹿児島クが初の優勝
九州で女子のクラブ選手権

九州協会は新事業として今年度からブロック女子選手権を実施することになり5月8、9日の両日鹿児島県隼人町に5クラブが参加して行われた。その結果、国体を来秋に控えた地元・鹿児島クが初のチャンピオンチームの座についた。

ブロックのクラブ大会は東海、近畿についで3番目。

▽1回戦（1試合）
佐賀ク 14（4―3、10―2）5 福岡教育大ク

▽準決勝
佐賀ク 16（11―1、5―3）4 熊本ク
鹿児島ク 22（10―2、12―2）4 宮崎ク

▽決勝
鹿児島ク 15（9―3、6―3）6 佐賀ク

女子で大谷クが優勝
ワクナガ薬品2連勝

▼第25回大阪府民体育祭ハンドボール（5月・天王寺高ほか）

▽男子準々決勝
待兼ク 20―10 西野田ク
ワクナガ薬品 19―14 宗形製作所
大阪ガス 22―9 大商ク
佐野工ク 16―13 オール堺

▽同準決勝
待兼ク 18―13 大阪ガス

ワクナガ薬品 20―9 佐野工ク
▽同決勝
ワクナガ薬品 18（9―6、9―4）10 待兼ク
▽女子1回戦（1試合）
寝屋川ク 16―12 住吉学園ク
▽同準決勝
寝屋川ク 18―4 大淀ク
大谷ク 11―6 大阪スターズ
▽同決勝
大谷ク 9（6―2、3―2）4 寝屋川ク

仙台大が2年連続優勝

▼第15回宮城県総合選手権（5月 宮城二女）
▽男子準々決勝
仙台大 21―10 仙台育英高
古川高OB 21―18 マツダオート
東北学院大 16―13 古川工高
東北大 22―9 古川高
▽同準決勝
仙台大 27―13 古川高OB
東北学院大 12―11 東北大
▽同決勝
仙台大 12（3―4、9―7）11 東北学院大
仙台大は2年連続優勝
▽女子決勝リーグ
塩釜女高 5―2 宮城二女高
宮城二女高 11―7 祇園寺高
祇園寺高 11―5 塩釜女高
【順位】①祇園寺高得失点差4②宮城二女高1③塩釜女高マイナス5
祇園寺高は初優勝

修道ク、日新製鋼おさえる

▼広島県一般男子選手権（5月・呉商高）
▽準々決勝（＝1回戦）
三菱レ大竹 23―9 石播呉造船
日本鋼管福山 34―7 広島県教職員組合
修道ク 15―12 全広商大
▽準決勝
日新製鋼呉 22―19 三菱レ大竹
修道ク 17―14 日本鋼管福山
▽決勝
修道ク 24（12―9、12―9）18 日新製鋼呉

日本発条が初の栄冠

▼神奈川県春季選手権（5月・横浜）
▽男子準々決勝
日本発条 14―9 日進商会
セントラル自動車A 26―8 一商ク
法工ク 15―12 セントラル自動車B
三春台ク 13―12 日本鋼管
▽同準決勝
日本発条 15―11 セントラル自動車A
三春台ク 20―10 法工ク
▽同決勝
日本発条 14（8―6、6―6）12 三春台ク
▽女子決勝
東ク 6（2―2、4―2）4 上溝OG
▽中学男子決勝
蒔田 4―3 万騎ケ原
▽同女子決勝
蒔田 7―4 大野北

久々に慶応高が活躍

▼神奈川県高校春季大会（5月・横浜）
▽男子決勝リーグ
湘南通信 10―8 市川崎
慶応 17―7 法政二
新城 14―8 市川崎工
法政二 10―9 湘南通信
新城 9―7 市川崎
慶応 12―5 市川崎工
慶応 14―8 市川崎
法政二 11―9 市川崎工
新城 15―12 湘南通信
市川崎 10（分）10 法政二
市川崎工 13―11 湘南通信
慶応 9―6 新城
慶応 8―6 湘南通信
市川崎工 13―9 市川崎
新城 11―7 法政二
【順位】①慶応5戦全勝＝初優勝②新城4勝1敗③法政二④市川崎⑤市川崎工⑥湘南通信
▽女子決勝リーグ
南 7―6 桜丘
東 8―1 江南
二俣川 5（分）5 市川崎
東 4―3 南
市川崎 7―4 桜丘
江南 5―4 二俣川
市川崎 5―1 南
桜丘 6―3 江南
二俣川 5―3 東
市川崎 9―2 江南
南 8―2 二俣川
市川崎 9―2 東
二俣川 2（分）2 桜丘
南 5―3 江南
【順位】①市川崎4勝1分＝4年ぶり4回目の優勝②南3勝2敗③桜丘④東⑤二俣川⑥江南

岡山は天城と真備

▼第26回岡山県高校春季優勝大会（4月・津山商）
▽男子準々決勝
天城 24―2 邑久
倉敷商 28―5 岡山工
津山商 15―9 倉敷工
操山 11―9 津山工
▽同準決勝
天城 17―11 倉敷商
津山商 16―11 操山
▽同決勝
天城 19（7―3、12―5）8 津山商
▽女子1回戦（2試合）
落合 11―2 井原
金川 15―1 西大寺
▽同準決勝
真備 23―3 落合
津山商 8―4 金川
▽同決勝
真備 8（5―3、3―2）5 津山商

添上が男女優勝飾る

▼奈良県高校春季大会（4月・添上高）
▽男子準々決勝
奈良 14―12 奈良高専
東大寺 18―8 畝傍
添上 16―5 榛原
郡山 10―6 生駒
▽同準決勝
添上 11―8 奈良
郡山 18―6 東大寺
▽同決勝
添上 8（2―1、6―2）3 郡山
▽女子決勝リーグ
添上 棄権 桜井商
生駒 14―2 桜井商
添上 9―1 生駒

国学院栃木高が男女優勝

▼栃木県高校春季大会（5月・足利商）
▽男子準々決勝
足利工 15―5 足利商
足利 17―3 石橋
宇都宮工 9―7 烏山
国学院栃木 10―5 馬頭
▽同準決勝
足利工 13―11 足利
国学院栃木 15―5 宇都宮工
▽同決勝
国学院栃木 10（4―3、6―4）7 足利工
▽女子決勝トーナメント1回戦
栃木女 14―1 足利女
国学院栃木 15―4 小山城南
▽同3位決定戦
小山城南 10―2 足利女
▽同決勝

国学院栃木 8（3－2 5－2）4 栃木女

▼第3回愛知県実業団選手権（4月・名古屋）

▽1部リーグ

大同製鋼 28－7 三友工業
大同製鋼 42－9 日本碍子
トヨタ車体 28－13 パイロット
新日鉄 24－6 パイロット
三友工業 27－20 日本碍子
三友工業 20－15 パイロット
日本碍子 28－23 パイロット
大同製鋼 21－9 トヨタ車体
トヨタ車体 20－15 三友工業
大同製鋼 27－12 新日鉄
新日鉄 28－17 日本碍子
トヨタ車体 11－9 新日鉄
大同製鋼 38－4 パイロット
新日鉄 22－14 三友工業
トヨタ車体 15－12 日本碍子

【順位】①大同製鋼5戦全勝②トヨタ車体4勝1敗③新日本製鉄3勝2敗④三友工業2勝3敗⑤日本碍子1勝4敗⑥パイロットインキ5敗

【2部順位】①ブラザー工業5勝1敗（得失点差57）②トヨタ自工5勝1敗（38）③豊田工機④タヨシ産業⑤三菱重工⑥トヨタ学園⑦中部電力

▼久留米市（福岡）選手権（4月・久留米工）

▽一般男子1回戦（3試合）

レフェリーズ 14－13 南築ク
自衛隊幹部候補生学校A 9－8 久留米工業短大
ブリヂストン・タイヤ 28－5 自衛隊幹部候補生学校B

▽同準決勝

自衛隊幹部候補生学校A 24－9 レフェリーズ
ブリヂストン・タイヤ 18－7 有明工専

▽同決勝

ブリヂストン・タイヤ 17（10－2 7－4）6 自衛隊幹部候補生学校A

▽一般女子決勝

明善 6（3－3 3－1）4 古賀愛球ク

▽高校男子決勝リーグ

久留米工 21－6 南筑
明善 21－8 南筑
久留米工 20－10 明善

▽同女子決勝リーグ

信愛女学院 11－4 南筑
明善 25－1 南筑
明善 16－2 信愛女学院

▼三重県高校春季大会（5月・四日市体育館）

▽男子予選リーグA組

津工 17－6 高田
津工 棄権 亀山
高田 棄権 亀山

▽同B組

津 32－4 四日市商
津 19－2 四日市工
四日市工 21－4 四日市商

▽同決勝

津 17（5－2 12－4）6 津工

▽女子トーナメント準々決勝

暁 13－3 四日市
亀山 7－3 津
津女子 11－0 四日市商
上野 10－5 菰野

▽同準決勝

暁 25－3 亀山
津女子 18－5 上野

▽同決勝

暁 5（2－2 3－1）3 津女子

▼沖縄一般及び教員大会（5月・沖縄工）

▽一般男子1回戦（1試合）

興南イーグルス 21－12 琉球大

▽同準決勝

那覇商OB 23－13 興南OB
興南イーグルス 17－8 沖縄大

▽同決勝

那覇商OB 23（11－4 12－4）8 興南イーグルス

▽同女子決勝

浦添・興南OG混成 25（9－1 16－3）4 琉球大

▽教員男子準決勝

沖縄工教員 18－13 首里教愛好ク
沖縄高教員 27－17 浦添高教員

▽同決勝

沖縄工教員 18（9－1 9－5）6 沖縄高教員

各地学連の新役員決まる

各地学連はこのほど昭和46年度新役員を次のように発表した

◇東北北海道▽会長　菅原菊志▽理事長　橋森禎二（東北大出）▽審判長　斎藤節郎▽委員長　上村福里（東北大）

◇関東▽会長　西敏郎▽理事長　滝口三郎（明治大出）▽審判長　遠藤健次▽委員長　奥田祥一（日体大）▽1・2部委員長　今井昇一（国士館大）▽3・4部委員長　市山隆一（成蹊大）

◇東海▽会長　梅村清明▽理事長　藤松博（名古屋工大出）▽審判長　宇津野年一▽委員長　矢崎正一（名古屋大）

◇北信越▽会長　空席▽理事長　若山博（日体大出）▽審判長　村井輝郎▽委員長　本野幸

◇関西▽会長　八田昌三▽理事長　久保義雄（同志社大出）▽審判長　前田吉弘▽委員長　伊谷勝幸（追手門学院大）

◇中四国▽会長　秋山政彦▽理事長　藤田信義（日体大出）▽委員長　島本武（松山商科大）

◇九州▽会長　船越栄一▽理事長　山崎剛（日体大出）▽審判長　中西敬一▽委員長　武田和生（西南学院大）

編集後記

いよいよ今年もシーズンたけなわの感じになってきました。学生界は一つの大きな転機にさしかかっているど同時に、新旧交替の時期にきているようです。実業団、選抜と新しい日程による大会が6月にいっせいに開かれます。

熱戦を期待したいものです。

日本ハンドボール協会編
「ハンドボール」
第八十七号
（昭和四十年六月上
第三種郵便物認可）
昭和四十六年五月二十五日印刷
昭和四十六年六月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
（都渋谷区神南一-一-一
電話 大代表(467)三一一一
振替 東京五八三四八番）
編集兼発行人 保坂周助
定価百五十円
（年間購読11回・千二百円）